

地一

出雲風土記解

上



意宇郡
島根郡
四六丁

●此解ニ鈔トテ引多ハ出雲藩士岸崎時照ノ所述出雲風土記鈔ニ全五件ノ鈔ヲ考説ノ中取ルキ説ヲ此解ニ収メモト見エタリ
但其文ヲ折畧ニ或ハ文ヲ改メ説ヲ改テノ鈔ノ説トシタリ今本書ニ授テテ奉文ニニ未タハテ傍書ニナハ取テ参考
ニ偏スルカモモトハ今別ニ各条ノ上頭或ハ解文ノ傍ニ書入リ取ヘカラス信ニカキキ考説ハモトヨリ捨テ、マサズサテ其鈔
ノ序ニ曰

上文畧

出羽當院四位上左衛門守兼權少輔源重政公 号松平 公入主キ此政公ノ能近公サズモ此代予既ニ三年四年
因中を免ガリ村里の東南西北其道度を記シテ予山の峯嶺山乃を谷のわかれ水止井社佛閣の旧迹
を考テ其形ハ似テ或ハ人のいフハ此山の形を記スルニ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ
るめりて村里を考メテ其形ハ似テ或ハ人のいフハ此山の形を記スルニ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ
と強ハテ記スルニ其形ハ似テ或ハ人のいフハ此山の形を記スルニ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ
旧の三百五十歩を今ニ三千余歩所をり一里といふ東南西北を記スルニ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ天示アリ
あるハとの事ナリ

天和三年 辛未 年 五月 日

出雲国神門郡 岸崎氏九次次源時照

岸崎氏九次次源時照

此鈔今及書アリ後人の手ニ此文ハ公トテ今ノ解ニ文書ウツセリ又三割云トテ公カ名説アリコレモ又曰ク書字ニ共ニ
参考ニ備フ

文政九四年三月廿日授
千時積雪満尺園窓更明夫

信友

凡例

一 圖國郡道路者依風土記之度

一 古、度者依令曰五尺爲步三百步爲里一尺二寸爲

大尺一尺度地用大

一 今、度者銅尺六尺爲步六十步爲町三十六町爲里

凡大五尺與銅六尺合

一 前出者再不註

一 文字補者○之傍活字謬衍者圈之下加註

一 地名傳記者訓讀如里數丈尺者音讀

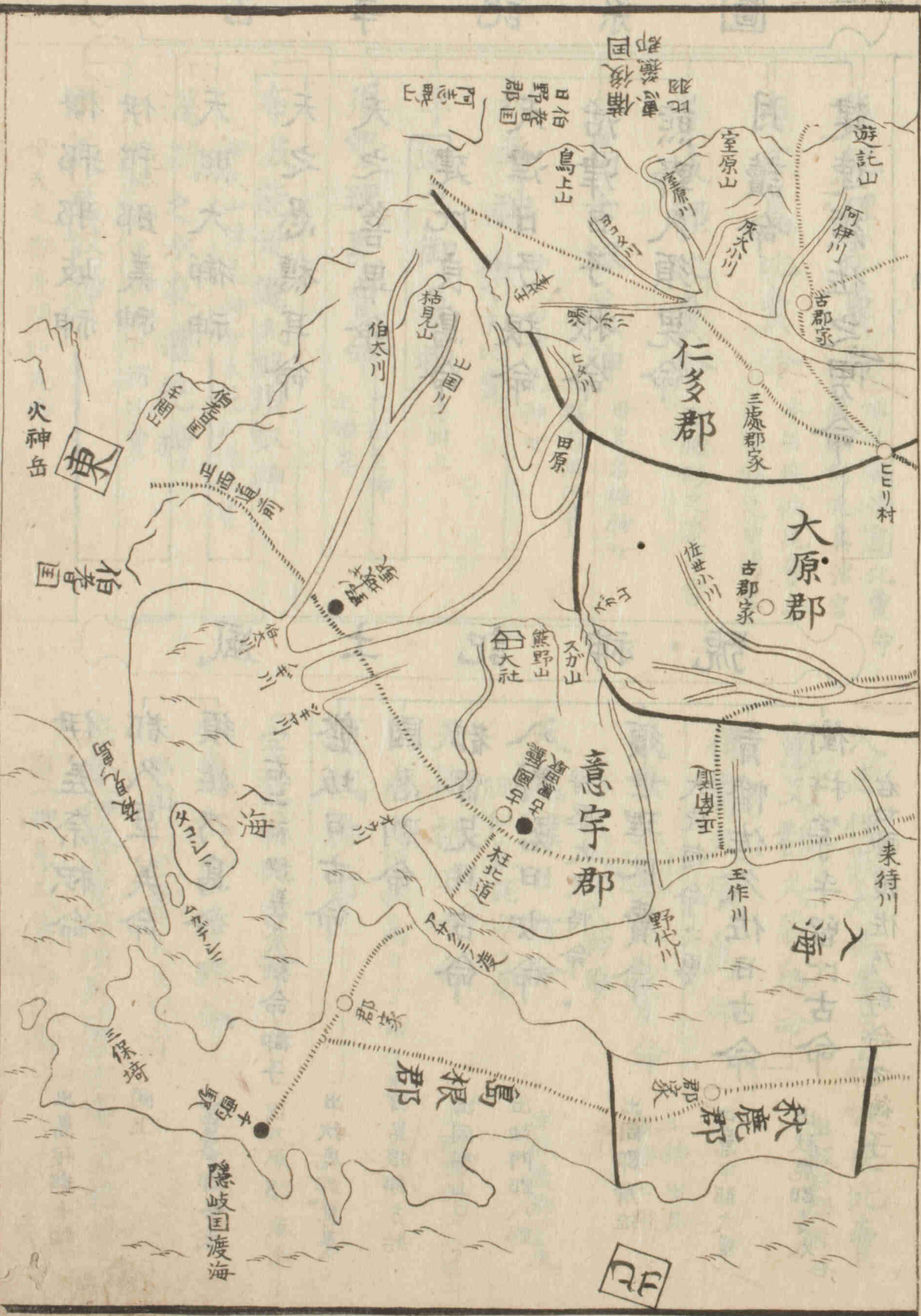
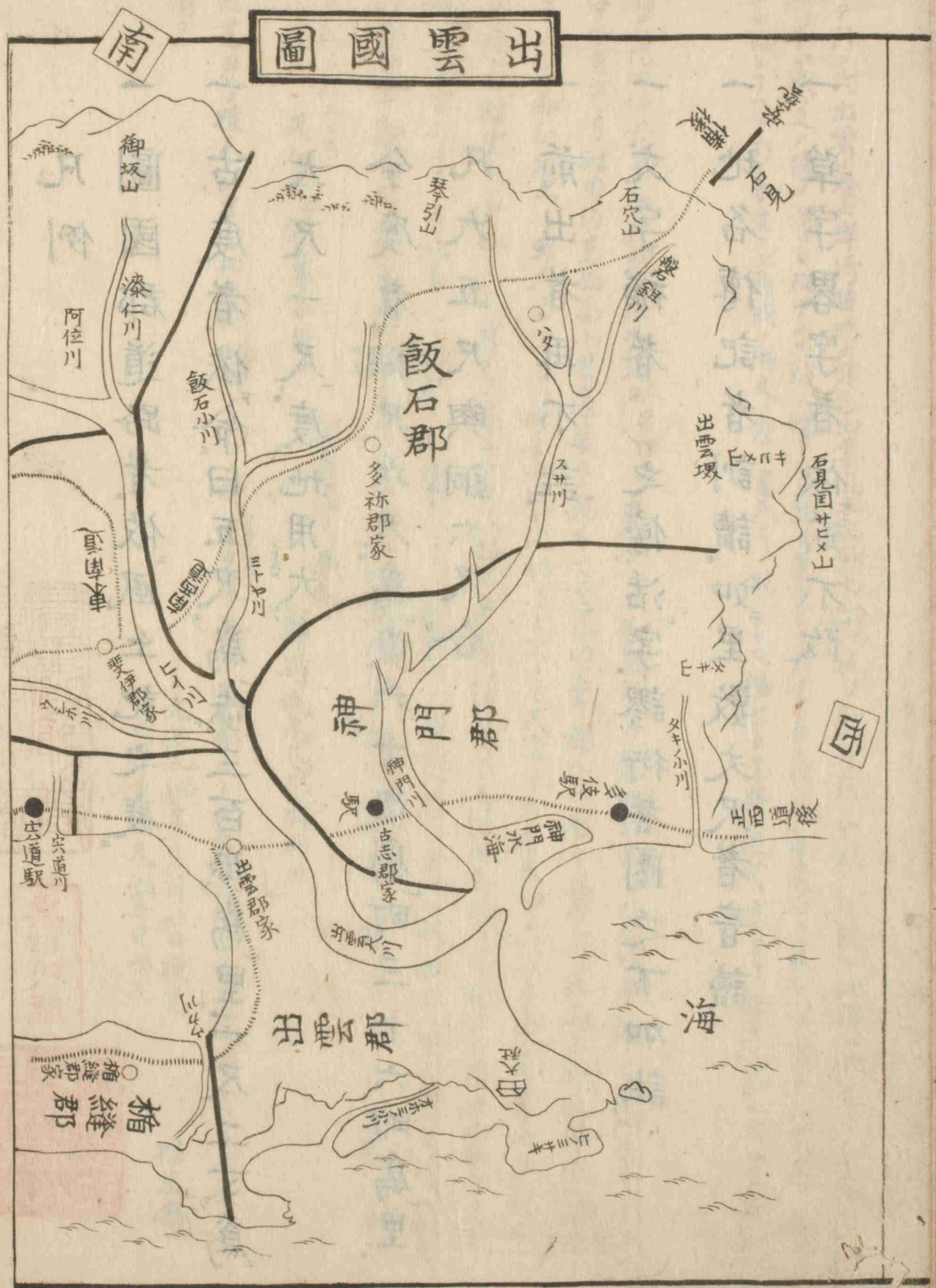
一 單字畧字者依前不改



東田氏藏



出雲國圖



古事記系圖

伊邪那岐神
伊邪那美神
天照大御神
天之忍穗耳命
天之菩卑命
建比良鳥命
天津日子根命
活津日子根命
熊野久須毘命
月讀命
建速須佐之男命

風土記神號

伊差奈杵命
都久豆美命
須佐乃鳥命
磐坂日古命
國忍別命
都留支日古命
八野若日女命
須世理比賣命
青幡佐久佐日古命
衝杵等乎留比古命
伊差奈杵命
都久豆美命
須佐乃鳥命
磐坂日古命
國忍別命
都留支日古命
八野若日女命
須世理比賣命
青幡佐久佐日古命
衝杵等乎留比古命
右七神須佐乃鳥命之御子

多紀理毘賣命
市寸島比賣命
多岐都比賣命
八島士奴美神
大年神
宇迦之御魂神
須勢理毘賣命

布波能母遲久奴須奴神
深淵之水夜禮花神
淤美豆奴神

久志伊奈太美等与麻奴良比賣
意支都久辰爲命
俾都久辰爲命
奴奈宜置波比賣命
天照津日女命
天御梶日女命
須我祢命
宇能治比古命
八束水臣津野命
赤食伊努意保須美比古佐倭氣能命

右一神意美豆奴命之御子

天之冬衣神

母布奴豆努神女布帝耳神

大國主神

母刺国大上神女刺国若比賣

亦名大穴牟遲神 葦原色許男神

八千矛神 宇都志国玉神

木俣神

母稻羽之八上比賣
亦名御井神

阿遲鉏高日子根神

母多紀理比賣神
謂迦毛大御神

高比賣命

母同上
亦名下光比賣命

事代主神

母神屋楯比賣命

鳥鳴海神

母八島牟遲神女鳥耳神

建御名方神

母舊事記云
古志沼河比賣

大穴持命

山代日子命

出意宇郡山代

和加布都努志命

出出雲郡美談

美穗須々美命

出島根郡三保

母奴奈宜圖波比賣

阿陀加夜奴志多伎吉比賣命

出神門郡多支

阿遲須枳高日子命

出仁多郡三津
與意宇郡加茂

右五神大穴持命之御子

鹽治毗古命

出神門郡鹽治

多伎都比古命

出楯縫郡神奈備

母天御梶日女命

右二神阿遲須枳高日子命之御子

大國龜命

出意宇郡飯梨

秋鹿日女命

出秋鹿之文

伎自麻都美命

出飯石郡來島

國忍富神

母日名照額田毘道男神之女
伊許知途神

速甕之多氣佐波夜遲奴美神

母葦原陀迦神亦名八河江比賣

甕主日子神

多比理岐志麻流美神

美呂浪神

布忍富鳥鳴海神

天日腹大科度美神

遠津山岬多良斯神

大國御龜神

波多都美命

出同郡波多

神龜命

出島根楯縫出雲

天津枳值加美高日子命

同上

亦名薦枕志都沼值

綾門日女命

出出雲郡宇賀

天御鳥命

出楯縫之文

真玉著玉之邑日女命

出神門郡朝山

大穴持命娶

王日女命同神歟

八尋鋒長依日子命

出仁多郡戀山
出島根郡生島

宇武賀比々賣命

出同郡法吉

支佐加比々賣命

出同郡加賀

右七神神龜命之御子

佐太大神

同上

槌速日子命

右一神支佐加比々賣命之御子

出大原郡斐伊

阿波枳閉委奈佐比古命	出大原郡船岡山
伊毘志津幣命	出飯石之文
熊野大神	出島根郡朝酌
熊野加武呂命	出意宇郡神戶
天乃夫比命	出同郡屋代
天津子命	同上
伊弉那弥命	出神門郡古志
布都怒志命	出意宇郡楯縫
須久奈比古命	出飯石郡多祢
支比佐加美高日子命	出雲郡神奈備
宇夜都弁命	出同郡連部
倭健命	同上
野城大神	出意宇郡野城取
海若	出同郡安来

出雲風土記解

遠江國內山眞龍撰

出雲ハ夜久母多都の詔小依て國号となる風ハ
國風土ハ土地職貢令義解云土地水泉氣謂之風

國之大體首震尾坤東南山西北屬海

山西一

誤。震ハ東小當る凡意宇郡母理郷を國の首とす。坤ハ西
南小當る飯石郡來島郷を尾とす。東南山こハ母理郷ハ
山小屬手間山長江山等東小從て伯耆國壤なり。南ハ仁多
飯石大原三郡山野之中也。大原郡の通道小記鳥上室原
御坂琴引等の山南方備後國壤也。西北屬海こハ國の大體
を謂小御埼山西北小さし出て其南西ハ出雲神門二郡の
大海伊奈佐の濱也。其北浦ハ宇龍濱也。楯縫秋鹿島根出雲
神門五郡並大海之南也。こ神門郡の通道小記さく西方石

信友云諸本卷端ニ出雲
風土記トアルヲ本ニ解
風土記ラシケテ書ルハ本
文ヲ誤ル書サニテイカ
ナリ

見國塲小佐比賣

山多支山等あり

東○^{訂西字アリ}一百卅七里一十九步

^{西字}南北小對して補。東ハ伯耆國塲手間

刻を道のうちとし。西ハ石見國塲多枳々山の刻を道の後
とす。道程ハ記中互小誤て能合へる所なし。さきど驛路の
道程ハ諸本共小同。此程惣ハ一百卅九里一百步也。今
考ふ。東西直道凡今道廿一里と出雲人三省ハ云り。

南北一百八十三里一百九十三

^{訂西字アリ}歩字例小
依て補三

里ハ誤。通度三里合。凡今道廿五里半六十分之十三どつり
南ハ飯石郡來島郷赤穴村を限。西南の通路備後國三次
郡横谷村へ通。其の堺より意宇郡玉作街小至て、一百四十
七里二百五十七步、中廿五步斐伊川の渡也。玉作街より國

信友云〇印ヲツケタル三件ハ諸
本ニ行ヲ別ニ書リ缺タニカ
ク書テハツケテ書タリニヤ
ウニ見ユコレハ諸本ニ行
ヲ別ニ書オクハハズ文ナリ
明ナル証ニ據フニ注昔ノ原
本破レタルカ虫喰アリニカラ
シヲ其ニニウツレツタヘタルナ
ルベシ

廳十字街小至て、一十九里正西道也。是を除て北方千酌驛
小至て凡卅四里二百步計。惣て南北の程とす。國廳より度

ハ國の南塲小至る程。一百六十
六里一百五十七步なり。通度合

枉北道九十九里一百一十步
と有べし。通度小此文字あり。一百步
凡今道十三里廿

九町弱。本文一百步とのゝ有ハ文字多關り。通度小依補べし
枉北道ハ十字街より北西小廻り島根秋鹿楯縫を経て出雲

の郡家へ通。郡家の
東邊正西道小合

東南道七十三里卅二步

東南道三字ハ通度の文小
出。凡今通十里五町餘通

度。文寫誤など有て合がし。是ハ大原の郡家より東南ヨ行道
仁多郡通道小伯耆國阿志毘緣山并備後國惠宗郡小通と記ス

得而難可誤

以上五字の上下文關て
依所なくし蓋裏書歟

老細思枝葉裁定詞源亦山野濱浦之處

鳥獸之棲魚貝海菜之類良繁多悉不陳

然不獲止粗舉梗槩以成記趣以上四十四字
是ハ郡郷の名

其詞源を記又山野濱浦ノ所在物まで載て風土記の趣を
たすこと云事を先ころふいふ言葉なり老字上下ノ字關

所以號出雲者八束水臣津野命詔八雲立

詔之故云八雲立出雲

以下五字一古本為別條

古事記曰須佐之男命降出雲國之肥河上在鳥髮地又曰茲大
神初作須賀宮之時自其地雲立騰余作御歌其歌曰夜久毛多都

伊豆毛夜幣賀岐都麻碁微余夜幣賀岐都久流曾能夜幣賀
岐哀と云哥を臣津野命の詔賜へる故八雲立出雲と號

と也八雲のハハヤツの心ハあらず歌謠柏子の發聲也
イヤの約りうるなり出雲ハいつるる也歌意ハ雲の立のほり

て垣の如く立こつるを詠ふと宜長の云けるはさる事也
八束水臣津野命の御名の意も八束ハ弥束とて八束劔

を云水ハ身の假字劔の實を三共ヒ共云ハ古語あり玉鋒の
みちハ鋒の身と受け佐比持神ハ細小刀を著る故の名也

劔ハ依御名ハ八束の身の大身主てふことおもひ
さて大身をオミと計り云ハ古事記ハ一言主大神を宇都志

意美と書たる例命ハ御言也おもひつゝの命ハすさのをの命の
亦名うと思ひまといやらし別神なる事ハ古事記曰すさのをの

命の御末深淵之水夜禮花神子。淤美豆奴神
と有。劔より何の御名の事ハ下より

合神社叁佰玖拾玖所

意宇郡安來郷文猪麻呂が禱詞
曰當國靜坐三百九十九社と

ある小合。壹貳の數字ハ大字書の古例
なり。公式令三十三云。有數者爲大字と有り

壹佰捌拾肆所

在神祇官

神祇ハ令義解云。天神曰神地
神曰祇とあり。共ニ加微と訓。官ハ

祭所のつかさ也。意宇四十八社。島根十四社。楯縫九社。秋鹿十社。大原十
三社。出雲五十八社。神門廿五社。飯石五社。仁多二社。式ハ此外三社有

貳佰壹拾伍所

不在神祇官

意宇十九社。島根卅五社。秋鹿十六社。楯縫十九社。仁多八社。出
雲六十四社。神門十二社。飯石十五社。大原十六社也。惣ノ小拾餘

社落文あり。不在神祇官とい官帳ノ不入社ハ所謂式
外なり。大社小社の議ハあり。ぬ夏古語拾遺ノ見えたり

玖郡郷陸拾壹里一百七十九

郡ハ古の縣也。國郡を分させ給ふハ。成務仁德の御代まで。紀曰務

天皇四年詔曰。自今以後國郡立長。邑縣置首。又五年小隔山

河而分國縣。隨阡陌以定邑里云。此時ハ凡の定也。類聚國史

十九卷。小難波朝廷始置諸郡と見也。孝德天皇二年あり。國も定まる數を

て狹田國間見國など云つ。さうぞ國造本紀ハ惣任國造百四十四國

出雲國造以天穗日命十一世孫宇迦都久怒定賜國造と見え。惣國堺ハ藤

原都の頃より定まらう。天武紀ハ定諸國堺。又進圖あて見え。其

後孝謙天平勝寶五年の頃ハ六十二國計なり。又其後ハ國にけ有て倭名鈔

小載。天平六十六國。小て。郡ハ五百九十八郡計也。今ハ六百廿七

郡計とぞ。出雲國ハ九郡あるを。後小意宇仁多を分ちて野城郡

戸令曰凡戸以十戸為里を置いて延喜式倭名鈔小ハ十郡也戸令曰凡郡以廿里以下十六里以上為大郡十二里以上為上郡八里以上為中郡四里以上為下郡二里以上為小郡云云式小ハ凡郡不得過十戸とも見えずり郷ハ今の里小當三戸令曰以五十戸為里とありバ郷一小里二ハ百戸里三ハ百五十戸也郷六十一を今數る小穴道駅を郷も入て六十二郷負倭名鈔七十八郷あり

餘戸ハ今義解ニ滿六十戸者割十戸三二里置長八其不滿十戸者隸大村不須別置也トアリ以記ニ餘戸里トル割十戸三二里トアルニ叶ヘリサテコレハアリト唱スルキニヤ丹後國人云尚國ニ餘戸ト書テアリト唱フヘリ驛馬見孝德紀又元明紀云和銅四年始置都亭驛

餘戸肆驛家陸神戸漆

餘戸ハ譬之六十戸ありむ所五十戸を里として十戸をアリの里とも肆ハ意宇島根楢縫神門小各一里あり驛家ハ既牧令曰凡諸道須置驛者每三十里置一驛若地勢阻險及無水草處隨便安置とあり出雲國東西凡一百四十里小五驛隱岐の道凡三十里小一驛惣て六驛出雲ハ小路より一驛小馬五匹の定式六部省云出雲國驛馬野城黒田穴道狹結多

岐千酌各五匹云云驛田二町の例神戸ハ神祇令曰凡神戸調庸及田租者並充造神宮及供神調度云云祝詞式忌御刀代と云是あり戸ハ竈也漆ハ七所意宇小参秋鹿小壹楢縫小壹出雲小壹神門ハ壹里と一十二あり合

意宇郡郷壹拾里三餘戸壹驛家参神戸

参里郷壹拾一本壹拾壹と有ハ穴道驛を郷小入るあり六此記ハ拾郷合里三十を郷別小里三神戸ハ各二

島根郡郷捌里廿餘戸壹驛家壹

秋鹿郡郷肆里一神戸壹里一とあるべきを諸本落文あり

楢縫郡郷肆里一餘戸壹神戸壹

備中口殘編風土記三曰
郷七十一所注二内神
龜年中有改里為
郷者トアリ

出雲郡郷捌

里廿三

神戸壹

里廿三、郷七、各里三、郷一小里二

神門郡郷捌

里廿二

餘戸壹、驛家貳、神戸壹

里廿二、郷六、各里三、郷二、各里二、神戸里の下、一字落文

飯石郡郷漆

里一十九

里一十九、郷五、各里三、郷二、各里二

仁多郡郷肆

里一十二

里一十二、郷別小里三

大原郡郷捌

里廿四

里廿四、郷別小里三

右件郷字者、依靈龜元年式、改里為郷、其郷

名字者、被神龜三年、民部省、口宣、改之

靈龜ハ續日本紀云和銅八年左京人高田首久比麻呂獻靈龜
元正天皇即位し賜ひて靈龜元年と改められ神龜ハ同紀云
養老七年左京人白龜を獻ふよりて年号を改めりま
聖武天皇即位し賜ふ、さて靈龜元年の式及神龜三年の口宣の事
ハ紀ヨもれて、其より以前元明天皇和銅六年の紀ヨ、畿内七道
諸國郡郷、名著好字と見え、又曰、其郡内所生銀銅彩色草木禽
獸魚虫等物具録色目及土地沃墾山川原野名号所由、又古
老相傳舊聞異事載于史籍言上こ、何れバこれぞ諸國風土記
の抄也と云ふ事
をいふあり

意宇郡

合郷壹拾壹里

餘戸壹驛家参神戸参

里六落文

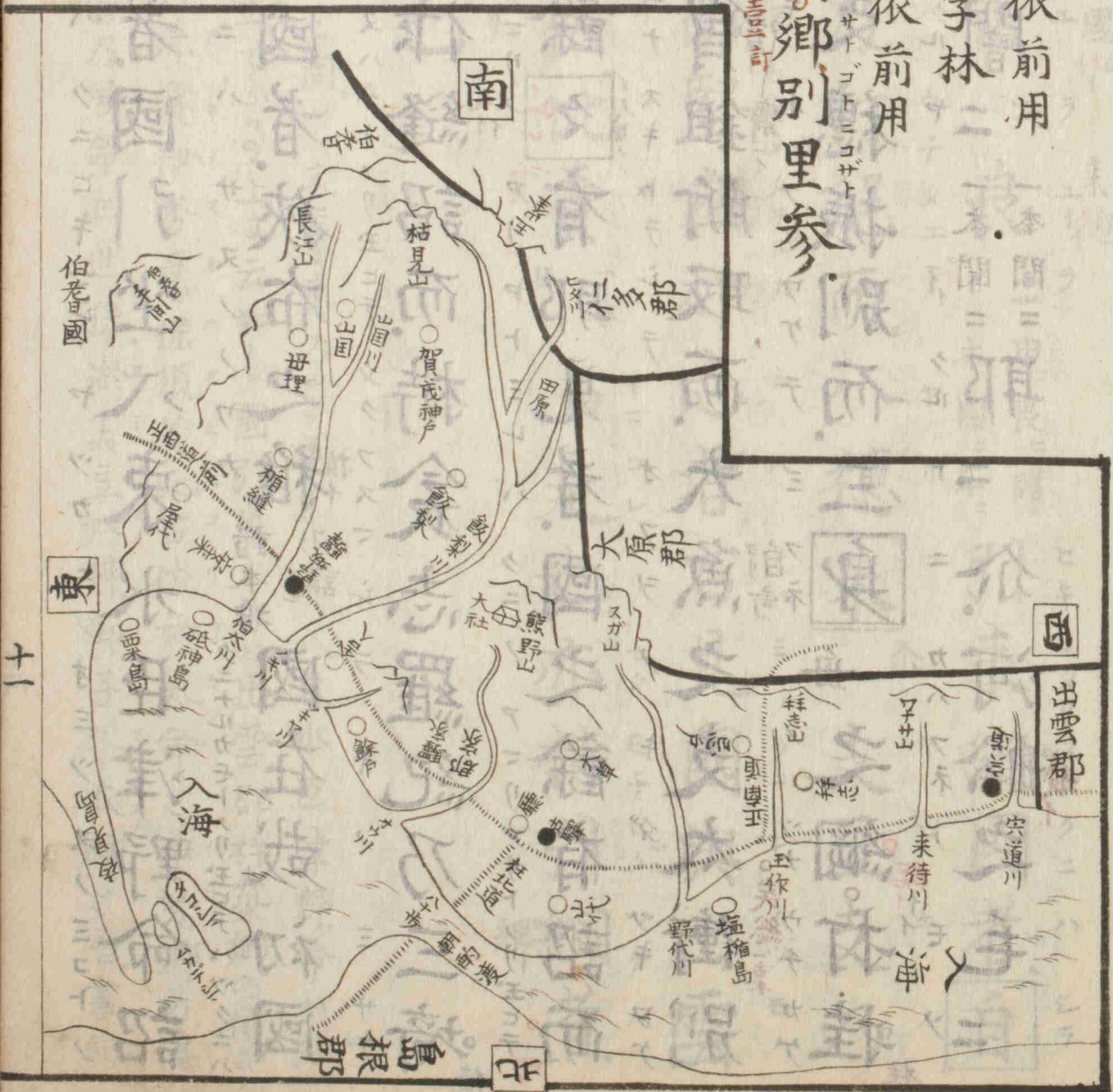
拾下壹と目錄に合はず以類多し里廿とある本ハ誤也。里六の字ハ一本と出雲郡神戸の例に依て補。又黒田驛を天平頃意字川の邊に移。今阿太加夜の地。

母理郷 本字文理
屋代郷 今依前用
楯縫郷 今依前用
安来郷 今依前用
山國郷 今依前用
飯梨郷 本字云成
舍人郷 今依前用
大草郷 今依前用

上文大草ハ改字よて佐草あり。本文佐草日古命坐故地名小負。完道ハ驛の名あり。後小郷と成て加へたる。目錄の一拾郷あるが。完ハ穴也。今古本の字形を寫して改めず。驛路ハ一所客字あり。黒田驛家なる本も有。

山代郷 今依前用
拜志郷 本字林
完道郷 今依前用
以上壹拾郷別里参

餘戸里
野城驛家
黒田驛家
完道驛家
出雲神戸
賀茂神戸
忌部神戸



池 演 島 通
四六丁才

信友國引、段後、別
ニリ、其外ノ考モ、

春満云矣ハ異ノ草堂
日大ヲ字アヨリテ矣ニ
作ルナルレ童女ハ冠
辞ニテ夜女カ式ノ大殿
糸祝詞ニ夜女能伊
渾渾伎トアリ正月ハ
存ノ張カ齋鉏齋翁
ノ古語ノ例アリ

所以號意宇者國引坐八束水臣津野命詔
 八雲立出雲國者狹布之雅諸本堆國在哉初國
 小所作故將作縫詔而持衾志羅紀乃三埒
 矣一本吳國之餘々イオシ有耶見者國之餘有詔而
 童女一本意女一宵鉏所取而大魚之支太衝別
 而波多須ニ支穗振別而三身舟ノ之綱打挂
 与霜エヒカツラクル黑葛闇一本間ニ耶ニ介河船之毛ニ

訂^{コヅノウキタエヨリ}自^コ去^ノ豆^ヲ乃^ハ打^ヒ滌^ス
而^{シテ}一^イ日^ニ

蘭之長濱是也
 國之垠有名佐比賣
 山是也亦持引綱者
 御埼也此而堅立加志者石見國與出雲
 玄來白多久豆乃打絶而八穗米支豆支乃
 曾二呂二介由二良二由二良二諸引來縫國者自
 國
 來
 目
 綱

意宇ハ郡名意惠と同。下文意惠のこころ小ふ。八束水臣津野命ハ弥
束劔ツカツルギの身ミの大身主オホミてふ上ヌシ云如し。國引坐イマスしミハ出雲郡杵築郷の傳ツキ
も出け神の御子ハ赤食伊努意保須美比古佐和氣命アツキイヌオホスミヒコサワケノミコと伊努郷の傳イヌ
小出古事記小須佐乃男命四世孫淤美豆奴神御子冬衣神フユキヌノミコと爲書紀

小菅根神と記。須佐之男命の草薙劍を五世孫天之菅根神を遣て天小
奉らせ給ふ書紀一ノ三十一。小名をり。此劍を於美豆奴命の持傳多ひしを。御子
冬衣神小よごし多ひて天小奉らせ給ふ。二神共は劍小よめる御名也。
さて國引多ひし神の御事を思ふ。八雲立の御哥を詠多ふ。新羅へ渡
るも。劍の大身を持多ふ。須佐乃男命なり。國引多ひしは神小く
臣津野ハ亦の御名なり。むと思へ。さああり。す。別神なり。

八雲立ハ雲の立のちるを云。上ノ註。狹布之稚國ハ佐奴乃乃和加具余
と訓べし。宣長云國のいふなり。ちる。ちる。て稚く又狹きを。狹布小譬て
云る也。狹布ハ織巾のせきき。を云。陸奥のちるのほそ布なり。めたるあり。
下文小初國小所作と云り。紀一書云古國稚地稚之時こも。稚國小因
初國小所作ハ波都久余波佐久都久礼利と訓。物の初ハ小き理あり。
二柱の大神島を生る。始ハ小島を生て。後ハ大倭豊秋津島を生
る。同。さて其小作を。を廣げ給ひ。む。て遠き國の餘り。を所を
引来て出雲國小付るなり。持衾ハ志羅紀とつくる冠辞也。仲哀紀

云。持衾新羅國云云。す。せりひめの哥。多久豆怒能斯路岐。こも。づけ。播磨
風土記ハハ白衾新羅こ。ちたり。持の本ハ倭名云。杜仲一名木綿。遠
江國の山中ハ木ホホツキ云。其實酸醬ホホツキ小似。ハ。あり。其皮を
紙小為スル穀と同じく白し。万葉集相模歌。和乎可羅夜麻能可頭
乃木と詠る木なり。

童女ミコメ冑ウケ鈕ノボハ乎止米乃牟奈須支と訓。宣長云鈕の直く廣きをいふ。
万葉集。胸別之廣ウケノヒロキ吾妹云々。冑の廣きを称ハバ處女の冑の廣き
如くひろく乎小直き鈕云云。ちる。む。又按ハ。ト。ナ。と通へむ。畝鈕ウケノボの
式。大殿祭の詞ハハ齋鈕とあり。

大魚ハ鮪ヒシメ鯨クジラの類。支太と鰓也。古事記云。意布衣余志斯毘都久阿麻
宜長云。大魚を捕。小口をつくら。支太とアギトのアを畧。大魚の鰓を
衝如くふつくと云。文意ハ。命の鈕をこして新羅の埼を衝屠分ウケホフリ也。
波多須々支ハ穗振分と云。迄ハる冠辞也。神功紀ハ幡萩穗出。
穗振ハハ字。屠也。記崇神の段ハ軍士を斬し。所を波布理曾能と

名付つ。斬裂衣をハフルと云。ホとハ。通てゐるゝゝゝ同。字彙もも屑ハ
裂なりと云。三舟之綱ハ御舟之枘綱也。打挂与焉を諸本
打挂与焉ハ誤。下文而霜と書たも誤なり

○黒葛ハくるこいといひ爲の冠辞なり。紀一書云。投黒髪。此即化成
蒲陶。倭名欽。紫葛。蒲陶。共小衣比加豆良と訓。式の民部式ハ
黒葛を都々良と訓。さて出雲と備後の堺小塩味葛あり。仁多郡の山に註
黒葛をエヒカヅラと訓べし

○闇ニ耶ニの闇を。聞又間等の字を書。諸本異なり。定がし。東万呂
大人ハ闇を正字として。クルハの義。ふりて訓まり。聞ハ誤字間ハ闇
を畧。字彙小晩也。とも註したまはクルの訓ちし。今ハ東万呂の訓。隨ハ
葛をくるこいといひ。耶ハヨの轉。て喚出を言葉也。万葉集中籠もよ。
我ハもよ。かどのヨ。同。河船ハ下の由ニ良ニまで。わける詞なり。
在満河船之冠辞。モヨハ河舟ノ藻。揚は後。フニルハ全語ソロク。モヨハ

○モニ曾ニ呂ニを寛々ソロソロかど云。常言成べし。三河國の舟歌ハ舟
ハ行々於々曾呂と諺ハ似たり

○由ニ良ニと諸本國ニ来ニと書。今ハ東万呂の由ニ良ニとあまゝる
小隨。万葉集ハ大舟乃往良往良。天雲之往莫々々と同じく
舟の水小ゆる。うまなり。重字を省書ハ古書の格なり

○白来ハ新羅と枘綱の白きことを兼て云。此所ハ殊小寫し誤多し。

白来多久豆乃打絶の辞三所あるて。あまハ自玄豆乃と書。
次ハ自多久乃と書。又の次ハ白手波縫と書。り。校考て
白来多久豆乃と定む。打絶而ハ枘綱もて新羅の埼を
引つ。渡りて出雲國ハ引付たれハ。引るの絶たるなり。此文ハ
バ支豆支ハひきつきて。詞とあまハ

○八百介支豆支ハ。弥百土城築。賀茂。大人祝詞考。ハ杵築ハ支
不都支といふなり。此而ハ下の文を起す詞

○堅立加志ハ舟をつあぐ杵を立るを云。堅ハ振の字の誤なり。む。
万葉集ハ許具布祢乃可之布流保刀尔とよむ。今も遠江國引
佐江の海人ハ杵立るをカシフルと云。倭名欽云。杵柯志。文德實

在満云神名式石見国佐比賣山神社アルヲ証トスニ

録仁壽三年六月、紀云、採集破舶、朽木造一舩、こあわバ、大木を用ゐたり。佐比賣山の石見國阿濃郡小屬て、出雲と石見の堺なり。堺をサヒメと云ハ常言めて二國のサヒメあるを以て名メ負こ。出雲臣俊信ハ云リ、今俗三瓶山と訛云

○蘭長濱ハ神門郡の文ハ水海与大海之間有山、長廿二里、一百廿四步、廣三里。此者意美豆努命之國引坐時之綱矣と云リ。此濱ハいささの小濱を傳ヒ、神門の海邊を石見の堺近き所也。東西小引延たる沙山なり。

上件の文、新羅の埼ハ支豆支の御埼となり。また朽ハ佐比賣山となり。持引多久綱ハ長濱となりし古事の傳りたるを此記に記せしものなり。かゝるハ、いささの命いささの命の島を生りより始りて、丹後風土記云、与謝郡海有長大石、前長二千二百廿九丈、先名天橋立、後名久志濱、然云者國生大神伊邪那藝命、天爲通行而梯作之、神御寢坐間、仆伏依怪、久志備

坐故云、久志備濱、天武紀云、是夕有鳴聲如鼓、聞于東方、有人曰伊豆島西北二面自然增益三百餘丈、更爲一島、則如鼓音者、神造是島響也。仙覺万葉集抄、富士あし高のあひ、此道を昔の旅人通りける、重服觸穢のものも朝夕通りける、あしわりの明神いささせりて、今のうき島が原と云ハ南海の中、小浪ふりてあけるを、打寄こせりてけり。古老の言をききすと云、いささの夏成り、後世も奈良都の頃迄ハよく云傳つし、式六月月次祭の辞ハ、遠國者八十綱打挂、引寄如事とし、万葉集ふたどのみふよせつたるを、へてよすれども、なごも云、今の世もてハ怪と思はる事も上代は何り怪るのあらむ、神代のころハかくぞありけり

亦北門佐伎之國矣一本天國之餘有耶見者國一本参

在満云神名式意宇都
前社アルヲオモ合ニ
信友云此記ニモ載タリ

ノ アミリアリトリ玉ヒテ シトメノムナスキトラシ^{取イ}
之餘有詔而童女胷鉏所取而大魚之支太
ツキワケ^テハタス^{意夜膏齊イ}ホフリワケテミ^{自訂}フネ^舟
衝別而波多須ニ支穗振別而三身^舟之綱
ウチカケタニヒ^{而テ倚イ}。
打挂与霜焉^{エヒカツラクル一本闌^ヤクルヤニカハフネノモ}
^{折イ}ソロニモノソロニユラユラヒキキタリ又フ諸本クニハシラ
毛曾呂ニ介由二良ニ引來縫國者白^綱
^{来キ}○多久○豆^{君イ}乃打絶而狹田之國是也^{サバノクニコレナリ}

北門ハ前件の新羅をさす。出雲國の北ハ新羅肅慎もつづきて東北蝦夷まで國るときけバ廣く北門とハ云なるべし。筑前風土記小岫門久岐等・万葉集十思麻度仲哀記ハ小魚鹽地を限す東門西門と書くる例も有。佐伎ハ埼也。又新羅の地名。齊明紀六年云。百濟軍士發

訂云良當作農、
抄云良當作野島
根養有野浪濱

憤據^ニ任^ニ射^ニ岐^ニ山^ニ云。胃鉏^ハ前^ニ小註
 ○打挂与霜の与ハ与也與の古字。字彙云授也。訓タマフ。粟ハ焉の
 誤。下同。白の下來豆の字ハ上の文ニ依て補。狹田國ハ秋鹿郡也
 佐太社佐太川佐田海等也。國ハ長谷國吉野國てふ小同
 亦北門良波。良伎を誤ウ又志。乃國矣。一本國之餘有耶
 ミレバクニノアミリアリトノリ玉ヒテヲトメノ一本童。ムナスキ。上^取テ
 見者國之餘有詔而童女。意女。胃鉏所取而一本
 オフヲノキダツキワケテハタス。ホフリワケテ
 大魚之支太衝別而波多須ニ支穗振別而
 ミ^{フネ}自^訂三身^舟之綱打挂而霜。与焉。黒葛闇ニ耶ニ尔。
 カハフネノモソロモソロニユラユヒキキタリヌフ
 河船之毛ニ曾ニ呂ニ尔。由ニ良ニ引來縫。
 十六

國の餘とも云べし。丹後ハ山陰道にて。越といひひがしといひむ。あづ道の名を付するハ崇神天皇の頃あり。國引給ひし神代々に見まばいさ。後のあり。神代の趣をいさ。西の國ハ都府有て東の方ハひなのみあり。此國の真中ハ西東へ引延たる山あり。山の面背ハ國より面より背ハ通ハむハ。何處より引延たる山を越ゆけハ今の山陰北陸道の國々を惣て高志といハ云し成べし。又あか。こも丹後の筒の地を高志といさ。ハ譬をいさ。この埒の地ハ三河國小瀨。つまど。此埒伊勢國ハ近き。ハ。万葉集ハ伊勢國伊良波。書。伯耆の地の夜見濱。タコシ。を出雲小瀨。今ハ豐前。の地の速鞆。長門。小瀨。如し。

○三穗ハ聞見國ハつ。名義ハ美穗須々美。命坐故なり。○夜見島ハ鈔云。伯耆國弓濱也。と云り。ユミ。ヤミ。ヨミ。同音也。古事記月讀命を紀。小月弓月夜見。も書。死たる人の行所を余美國と云。夜見島あるをもて。屍を棄る。ところを書紀。

奥津桑戸と云も實ハ同じ。夏なり。余美を黄泉とかき。又紀一書。小瀨。般之。處。も書。り。

○伯耆ハ。或書ハ風土。記曰。稻田姫ハ頭之蛇欲吞之。故遁入山中。時。母遲來。姫云。母來。故号。母來國。と云へ。按。ふ。い。づ。あ。の。神。を。大。山。小。瀨。奉。て。母。君。國。て。ふ。夏。の。是。ハ。こ。う。國。号。解。小。委。注。

○火神岳ハ伯耆國會見郡あり。三保と南北ハ相對ひ。前文の佐比賣山ハ支豆支の埒と日の横ハ相對て國の鎮とも云べき。大山なり。さて支豆支の埒ハ國の西北。て新羅ハ向ハ。三保埒ハ東。さし出て高志の都々ハむ。かくて國成て其引綱ハ夜見島其杓ハ火神岳となり。傳也。此岳ハ文德實錄齋衡三年八月。大山神加正五位下。と見え。式ハ大神山神社と云。此記ハ古本ハ火神と云。

今者國引訖詔而意宇社介御杖衝立而意

惠登詔故云意宇。所謂意宇社者。郡家東北邊田中在。是也。圍ハ步。

許其上有

以茂オホ意惠オホ意宇オホ共オホ於オホ煩宇オホ惠オホの畧言あり記オホ於オホ煩釣オホ又オホ溺オホのオホほも
同言宇惠ハ宇オホ流オホ氣オホ惠オホ也畧オホく惠オホこ計オホも云神武紀歌ハ和礼波
夜惠奴推古紀ハ伊比余惠オホ云オホ共オホ小飢オホの上畧オホあり万葉集オホ卷三
小飲宇海オホ廿卷ハ出雲掾奈杼麻呂之哥ハ於保乃宇良オホこもよ
た多オホど大の意オホハ何オホじ宜長云オホオオホをオホ勞オホて息時の聲あるべし
今の俗ハアオホエオホといオホも通オホと云オホ附オホ云記神武段ハ遠延而伏
紀ハ人物咸瘁と書是ハシエの假字オホめてオオホハ意異あり
塾ハ東万呂云平地有堆者塾といハバコヤオホと訓べしといオホ事
しオホく叶オホヘオホ意宇社ハ慥オホハ知オホるオホ事オホ意宇川邊の古ハ
黒田と云し今ハ黒土の所ハ意宇六社中の社として一社ありと成べし
在塾オホと云所ハ此所
と定オホがたオホし

母理郷郡家東南卅九里一百九十步凡今道五里十八町餘

所造天下大神大穴持命越八口古國平賜ムケタミ

而還坐時來坐長江山而詔我造坐而命クニハスメミノミコトトコヨニシラセトヨサシマツリタダヤクモ

國者皇御孫命平世所知依奉但八雲タツイヅモノクニハアガシヅミリスクニトアヲカキヤメメグラシタミヒテタ

立出雲國者我靜坐國青垣山廻賜而王オキタミヒテモルトノリミヒキカレモリトイフ

珍直神龜三年改字母理賜而守詔故云文理

母理ハ出雲國大體首震と云ハ當る郷あり此記ハ九郡ありを
後小能義郡を置いて延喜式以後ハ十郡也此郷倭名鈿能義

此國云云

さうてふとひきす時。其后すきり姫の命。酒坏をこころして歌曰。やち
ほあのかみのみこと云々。如此歌即為宇岐由比而宇那賀氣
理豆。至今鎮坐也。云々。以言の意ハ御頂小御手打かけ寄。せし
居りて他國へ出さう。出雲國小鎮坐となり

○青垣山ハ垣の如くなる青山をいふ大神の本宮ハ宇賀の山
本小記云須佐之男命曰我之女須世理毘賣為嫡妻而於宇
迦能山之山本於底津石根宮柱布刀斯理於高天原氷楲多加
斯理而居是奴也

○玉珍置賜コハ書紀一書ニの十。大なるちの神の白。將自此避去。
即躬披瑞之八坂瓊而長隱者矣とある同じ。この玉ハ國をこら
そ君の纏をを。是をこき置ハ。國讓のさなり。書紀本文ハ
以平國時所杖之廣矛授二神とあるもおなじ國讓のみあるし
物なり。直ハ置の誤。置を直ハ誤

○守りあるハ今の顯國を普く守りへむ齋あつめ國を

なり。中も目小見え。るハ常陸國鹿島郡大洗の磯小石を考
給るハいちぢるし。飯石郡多祢郷小あるす。御子事代主神ハ皇孫
命の近守と貢置ある。神賀詞を
てらしめて守りふことをさるる

屋代郷郡家正東卅九里一百二十步。凡今道五

天乃夫比命御伴天降來社伊波之

遠神天津子命詔吾淨將坐志

社詔故云社神龜三年改字屋代

屋代ハ鈔云。吉佐安田未明關村三村一郷あり。東。坂手間。刻者
乃關村也。自關以東經四十五町。則有伯耆國手間郷也

鈔云此ハ於吉佐。安田。未明。關。等村ハ屋代也。ハ

○天乃夫比命ハ日神の御子天之菩卑命也。夫と菩通。天降給しるハ神賀云。出雲臣等我遠神天穗比命。國體見不遣時。天能八重雲手押別。天翔國翔。天下手見廻。返事申給云。天津子命ハ穗日命の御子天夷照命の亦名成。記建比良鳥命。神賀天夷鳥命。以外も數々あり。此御名の天をア。訓ハ神名式出雲國小阿麻能比奈等。理とある。下つ國をこといけ。此神を天降し。多ひしを。以記の傳へハ。夫比命の御伴。て天降多ひし時の社を吾津將坐社と詔多ひしを名は負て。屋代と云。なり。淨ハ靜の誤。志ハ吾志と云。べし。伊支ハ國造の名。少く上件の神の御末成。べし。

楯縫郷郡家東北

北

南北
海中

卅二里一百八十步

凡全道
四里十

九
町

布都怒志

命之

天石

楯縫

直

置

給之

故

云楯縫

楯縫ハ今能義郡口縫郷也。鈿云清井清瀬野外門生四村也。

○布都怒志命ハ紀云。磐裂根裂神之子磐筒男盤筒女所生之

子。經都主神也。是神武甕槌神也。二柱相並。國平小天降

給。し。こと同記。古事記ハ。伊都之尾羽張神。子建御雷之

男。神とあり。布都ハ劔を振る。この神ハ秋鹿郡大野郷と出

雲郡美談郷の傳。は。ゆる和加布都努志能命。ハ別神あり。

○楯ハ軍器。天ハ貴て云。石ハ不變をもち。稱言。紀伊國有馬村

の楯ガ埼を神武紀小天。磐楯とも書。なり。さてこの神楯を縫置

ヤスキノ

安来郷郡家東

北南北

二十七里一百八十歩

凡今三

神須佐乃鳥命

天壁立廻坐之

介時

來坐此處而詔吾御心者安平成詔故云

安来也

安来ハ欽云安来市同宮内和田黒鳥島田六村也

須佐乃鳥命ハ天照大御神次月讀命次建速須佐之男命並ハ生おせり猛きこぼしうあふ時ハ古事記ハ速須佐之男とわきこ

の神のみもとへ大國主神いづうあひし時ハ大神と書うり名の所上小神何と云ハ貴言也日の神の御め惡きこぼやあすて所避追而降出雲國之肥上河上在鳥髮地古事記ハあて

鈔云安来々々々今入手能儀郡此會安来市同所宮内和田黒鳥島田思ハハ

後小居熊成峯而遂入於根國紀一書云

天壁立とハ見放る天の四方またれて遠きを云祝詞式ハ天能壁立極國能退立限青雲能靄極白雲能墜坐向伏限とあま

壁立と同さて以處小来坐て御心安く成りて御言を地名小負也ハ語の終辞めて下

文ハ猪麻呂ガ故事也

即北海有日

買埼

北ハ此邑ハ毘の誤内宮本日を書鈔云安来十神山磯有云比賣埼處

飛鳥

淨御原宮

天武天皇の宮所大和國高市郡岡村と橘村の間小飛鳥村と明日香川原宮同所

御宇

天皇御世

天下國家を惣知食祢言をスヘラミコト云世ハ齡めて始終の間を云天武天皇小名と大海人御諱天淳中

△所謂猪麻呂之女子見吞却于鯨魚者蓋此所飲俗誤傳云棟屋明神と三保神通婚之時適為鯨所傷於其足云

原瀛眞入天皇

甲戌年

天武三年

七月十三日語

古本語諸本詔

臣猪麻

三ノヤホコニシテ
多ノ銳鋒撰ト訂スヘクヤ
下文ニ準鋒而ミトアリ

呂 下文出雲神部置君猪麻呂と云 之女子 ガムスメ 逆件埼邇 道ノサキニアソビテタマ

逅遇和介所賊不 サカニワニニアヒ ソコナハレテカヘラズ 余時父猪麻呂所 ソノトキ

賊女子歛買上 ナハレシムスメヲ ヒメサキノホトリニヲサム 毘賣埼 歛買上ヲサメノホトリと云ふむ。按小 大發 オホゴ

声 欽本声 憤號天踊地行吟居嘆晝夜辛苦無 イキトホリアメニヨバヒツチニヲドリタチチナゲキ ヨルヒルカラウシテヲサ

避歛 メソトコロシ 欽本歛 所作是之間經歷數日然後興慷 サルコトシカクスルホドニ ヒシヘタリ シカシテノチ イキトホリノ

慨志 コノロヲオコレテ 麻呂 猪麻呂 箭銳鋒撰便处居即 ヤノサキヲエラビタヨリノトコロニシリヤガテヲカニウタヘ

按禱 ケラク アニツカミ 云天神千五百萬地祇千五百萬 ホヨロヅクニツカミ 並 神名

當國靜坐三百九十九社 コノクニニシヅミリニス ミモ、千ニリコ、ノリ 目錄云壹百捌拾肆所 目録云壹百捌拾肆所

所不在神祇 コトゴトハ 及海若等 和余ハ海のものある 大神之和 オホカニ

魂者靜而荒魂者皆悉依給猪麻呂之所 ミタニハシヅミリテ アラミタマハ コトゴトハ 中ニロガコヒノムトコロニヨリ

良有神靈坐者吾所傷 タニハ 給 アガ イタメルヲ 以此知 タニハ

神靈之所神者介時 カミタルヲシラムトイヘバ 有須臾而和介百餘 ソノトキ シメシアリテ

進不退猶圍繞耳介時舉鋒而 シツカニ 欽本靜 圍繞一和介徐率依來從於居下不 ヒトツノワニシカコミ 中テ アガモトニヨリキテ スス

依藤志満云中央一和介
殺捕ト此云我ニヨムベシ上
ニ圍繞一和介トアルニ付ヘテ
ヨムベシトアリトコニ然ルモナリ

あるこの神を式の春日祭の詞小香取坐伊波比主命と云也。書紀二の卷十二回出
○正倉ハ正統を納る公の倉なり。和名鈔ハ倉廩とも久良と訓也。
垂仁紀ハ五十瓊敷命曰神倉雖高我能爲神倉造様てふハ神倉なり。
あつハ令義解曰正倉者正統と何るや。あつハあつてさうくらと高倉肆
庵なりと云。又家を居倉といふ。
ハ長門の俗言ふもあ也。

飯梨郷郡家東南卅二里。凡今四里十六町 大國魂命天

降坐時當此處而御膳食給故云飯成神

三手改

字飯梨

飯梨ハ鈔云飯梨利弘實松天田古川新宮富田田原八村也。
附て云富田小古城有平家士景清が築しこかり曆應の頃鹽冶高

負此城ハ住明德の頃佐々木治部少輔高範及鹽冶駿河守住
て以國を領近世尼子氏世々をみたるを毛利元就ハ屠ら
其後堀尾帶刀すて出雲隱岐の二國を領そのころ子忠氏
と議して今の松江ハ移し造る頃ハ慶長十三手とぞ
○大國魂命ハ記云大年神娶神活須毘神之女伊怒比賣生
子大國御魂神と何る以神なるべし天降とハ貴て云。御膳ハ
みけと訓べし食物を惣てけと云。賦役令義解云土地之所生
皆爲毛と云。其毛ハ炊て飯と云ふハ飯成と負

舍人郷郡家正東廿六里。凡今三里廿二町 志貴島宮御

宇天皇御世。欽明天皇 倉舍人君等之祖日宣置

臣志毘大舍人供奉之即是志毘之所居

故云舍人即有正倉

人下即上
也字脱歟

舍人郷ハ鈔云。吉岡。月坂。赤崎。澤村。野方。折坂。六村也。志貴島ハ欽明紀云。遷都於倭國磯城郡磯城島。仍號爲磯城島金刺宮と有り。崇神紀も遷都於磯城。是謂瑞籬宮と有り。此ハ欽明天皇の御代をさす。

○大舍人ハ職員令ハ左右大舍人寮ありて。頭大舍人。名帳。分番宿直。假使容儀事を掌る。大舍人八百人。こゝろえり。考課令ハ恭慎無怠容礼云云。爲舍人之最と有。

○日置ハ神門郡置郷と有る氏也。姓氏録ハ應神天皇皇子大山守王之後とあるとハ異あり。

志貴ハ名。あの人ハ大舍人の職ハ補して仕奉しあり。武烈紀の眞鳥大臣男輔と有る人ハ別あり。

○正倉ハ正統を納る久良也。前ハ注

大草郷郡家南西二里一百廿歩

凡今ナ
ス
ナ
乃訂

乎命御子青幡佐久佐日古命坐故云大

草クサ

大草ハ鈔云。日吉。岩坂。大庭。佐草。四村也。按ハさくさひこの命坐於地の名ハ負さまハ舊ハ佐草といひけむを郷と成し時ハ大

草と改しなるべし。この神ハ從五位下を授けしハ文德實録青幡佐草ハ今ハ朝野群載ハ佐草佐久佐神ハ有。青幡ハ冠辞。万葉集ハ青幡之忍坂山。あり。青幡木幡と有。

つづけたるを思ふ。佐久佐の佐ハ發語。て青幡の如く靡く草とつづけしなり。草ハ多き中ハかやをさす。紀ハ草祖草野

姫と有を記ハ鹿屋野姫と有。須佐乃乎命の乃ハ訓付

べし。故乃字補。御子ハ佐久佐日古と有。他の書ハいさ及ハを

大原郡高嶺山下ニ神湊佐能
表命御子青幡佐草時命ト有
和訓栞サウメノ段ニ

山代郷郡家西北三里一百廿步

凡今十
七町所造天

下大神大穴持命御子山代日子命坐故

云山代也即有正倉

山代ハ鈿云竹屋ハ幡間漏矢田津田乃木阿手奴伎ハ村也
神名槌山麓大穴持命ハ母理郷ニ註山代日古ハ諸記ニ見及ッ

拜志郷郡家正西廿一里二百一十步

凡今三
里餘

所造天下大神命將平越八口爲而幸取

此處樹林茂盛今時詔吾御心之波夜志

詔故云林神龜三年即有正倉

拜志ハ来待湯町布自奈管原等の所アリ来待川の所ニ註

大神の下大穴持の三字を畧く下文ニ畧する例あり

平を乎ニ誤口を口ニ書ハ皆ヨリし母理郷も越八口ニ出ハ字彙

曰古國字皆作口ニ云マ越ハ高志國也越を平給るも母理郷ニ註

八國ハ八數ニ限らす山陰北陸二道の區をさするも前ニ註

波夜志ハ林ニてをえを云清寧紀云取舉棟梁者此家君御心

之林也万葉集乞食者歌曰御筆波夜志ニ云マ拜志ハ波夜志ニ

訓ヤニイコ通ヘズ倭名鈿小讀岐國阿野郡林田を波以多と訓マ

以を延キバヤシとあるマ文德實録小京の禪林寺を拜志寺と

ル也マさく整立ものハをえゆキハヤシといふ

野城驛

城驛郡家正東二十里八十步。

凡今二里
廿九町餘

依野

城大神坐故云野城

野城訓能義延喜の頃ハ郡の名となりたり此驛邊ハ野城川流る鋤
今能義和也
 有松井村于野城社併松井中津中島田賴ヨリ以為此郷也取サ往古言
 有二三十六丈野城橋今無之
 野城大神ハ他書小見及ハズ按小穗日命この地を敷ホヒキ

けむ。故能義郡の式社ハ穗日命也。附て云。神門郡阿^ア奈^ネ社を俗人
 大穗日子神と云ハ播磨風土記小出雲國阿菩大神とある同神
 なるべし。オホの約と阿^アなきバ共小
 穗日命の御りと思はるゝあり

黒田驛郡家同所

此記を録シルちし時ハ駅ニ郡衆
同所不在を先こゝ、よいふ

郡家西北

二里有黑田村。土體色黑故云黑田。

黒田村の
所由を云

舊此處有是驛。即号曰黑田驛。今屬郡家。

東・諸本今屬郡。欽本今郡家屬東。
内宮本屬郡家東と有を用。
 今猶追舊黑田号耳。

天平以前ハ郡家より西北二里小駅をしを今郡家の東小移し
屬ても舊の号を追て黒田駅といふなり。さて黒田の所ハ神名

備山の東南意宇川の北なり。今ハ黒田村てふハあゝ新郷。阿多加夜より十町餘西北の田づゝ加黒き土のそめて黒田といふ。む小違所なり。近世迄此所ハ意宇町として小き肆ありしが寛永十三年松江小城を築しより移りて住入絶つりとむ里人の云ける

○鈔云舊郡家乃竹屋村田疇大神森木之邊也。今郡家屬東者乃今之阿多加夜之市廛也。按小郡家駅家同所なり。地をさして呼時ハ黒田駅意宇郡家と云なり。惣て郡の名を負たる郷ハ郡家ハあなり。あゝあゝ郷ハ郡家あり。後小名の改りしなるべし

完道驛郡家正西卅〇里

說名如郷

驛程卅八里
郷程卅七里

出雲神戸郡家南西二里廿歩

凡今十町餘

伊特奈枳

信友云ハ與ノ神書ニアラス
與ノ通字ニ

乃麻奈子坐熊野加武呂乃命与

与ハ與ノ神書記
中ト云所ヨ用

五百津鉏ニ猶所取ニ而

所造天下大穴

持命二所大神等依奉故云神戸

他郡等
神戸且

之如

五百津鉏ニ猶所取ニ而の十字ハ此所の文ハあゝず且上下の文とたれたるか一本鉏ニ神所作而とむハ五百鉏を強て神号とあゝるなり一本鉏以下持以上十四字なり

○出雲神戸ハ鈔云相當大草郷中神明之社也天平以後合徒神戸大庭之社と云也出雲神戸と云ふハあゝれど文字關たるうさきご熊野命と大穴持命の神戸なるるハ文面小

崇神紀七年定天社國社及神
地神戸。○今曰神乃調庸田
祖並元造宮及侍神調度

てあらる。依奉ハ熊野命ニ大穴持命ニ神ニ以神戸を依奉也。崇神天皇の御代のるるべし。
○麻奈子と称言。万葉集ニ父母ニ我波麻奈兒曾。式の鎮火祭の詞ニ麻奈弟子ともあり。加武呂乃命ハ式の神賀詞ニ伊邪那伎乃日真名子。加夫呂伎熊野大神と云。須佐之男命の御事成べし。加武呂ハ賀茂大人云。神漏伎なり。仁明天皇紀哥小少彦名命を崇めて加夫呂伎と曰しもある。神呂君と云を畧く依奉ハ寄附して神田奉をいふ。
○他郡等神戸且如之とハ秋鹿。楢縫。出雲等の神戸も二神奉。夏皆同となり。神門郡の神戸も出雲神戸なり。むを字關あり。

賀茂^{カモ}神戸^モ郡家東南卅四里^{凡今四里十六町}所造天下

大神命之御子阿遲須^{アヂス}枳高日子^{キタカヒコ}命坐葛

称似爾本云

城賀茂社此神之神戸^{ナリ}故云鴨^{カモ}神龜三年改字賀茂

即有正倉

賀茂神戸ハ倭名録同。録云有安来宮内村賀茂明神之祠也。今入野義郡

○阿遲須枳古事記阿遲磯城と書磯と須通用あらハ味也美を宇麻志といふ日同しき称言。美城高と云る冠辞也。神門

郡高岸ハ此神幼くある時晝夜哭坐仍其處高屋造而坐之。即建高椅而登降養奉とあり。高彦の高ハ高屋の高を負ますあり。後又出雲郡の阿受枳と云地の名を負る。高岸郷ニ註

○葛城賀茂ハ神賀詞ニ阿遲須伎高彦根乃命乃御龜手。葛木乃鴨能神奈備^{ミササ}坐云云。皇御孫命能近守神登貢置とあり。大

和國葛城山の麓の高鴨社を云

和名移賀茂神戸

忌部^{イムベ}神戶^{イムベ}郡家正西廿一里二百六十步^{凡今三里}

一町餘^{クニノミヤツコカムヨゴトニシシミミカドミマヤルトキ}國造神吉詞^{ミミ}奏參向朝廷^{イミ}取御沐之忌

里^{サトリ}故云忌部^{イミ}

詞奏を調望^ミ誤忌里を忌玉^ミ誤本^ミ又この神戸のけしる本も
○神吉詞ハ神賀吉詞とあてカムホギノヨゴトと訓べきを賀字
なればバヨゴトとの訓仁多郡三津郷も神吉詞と書なれど
賀字關たるハいづれ^ミ續日本紀延喜式類聚國史等ハ各
神賀と書^ミ

○忌部ハ今の忌部村也并志郷に鄰る忌部の祖ハ布刀玉命
あの神のみま^ミ神事ハ侍時ハ中臣氏と同仕奉る忌清
よりする^ミ忌部と云この所ハ其氏ハいづれ國造の忌里なり

○國造ハ久仁都久利の約^ミ久仁乃美屋都古と訓を今人
クニツコと訓なり出雲國造ハ穗日命之後なること諸記ハ
明らなり神賀を奏給^ミハ續日本紀元正天皇靈龜二年二
月ハ出雲臣果安齋竟^ミ奏神賀事^{カホギノ}と始て見ゆ○上文ハ御沐
の忌里を記下文ハ出湯の靈驗を謂

カハハニイデユアリイデユノトコロ

即川邊出湯出湯所在兼海陸仍男女老

少或道路駱驛或海中^{一本沼}洲^沼日^ニ集成市

諸本ハ日集成帛^{ヒトタビ}續紛燕樂一濯則形容端正再浴^{フタタビ}

則萬病悉除自古至今無不得驗故俗人^{イミ}

俊信云。曰上脱号字三澤湯可證

鈔云有玉作川温泉然則東西忌部玉作湯町面白谷等然而忌部神戶也。古語拾遺曰太玉令所率神興明玉令出雲國忌部玉作祖也。路時參式凡出雲國所進御宮或玉令連令意宇郡神戶玉作氏造備

寺

教吳寺在舍人郷中郡家正東廿五里一百

廿一步建立五層之塔一本也の有教吳僧之

所造也散位大初位下上腹首押猪之祖父也

教吳寺ハ鈔云口縫郷内可爲今之清水寺興寺僧云大同元丙戌年創算天台宗也。按記中九寺ハ寺ハ号なく新造院と記教吳の号あるハ早く造し寺成べし。有僧とハ省の處分を註て度帳を持する僧を云。散位ハ宦

往古院宇嚴麗堂舍尽地院領布地甚許多也自申也。衰廢見今餘六坊舍。五層、層字注云下ナリコニアルハキ

曰神湯也

駱玉篇云主車駕續紛聚盛也。浴諸本泳ハ書鈔本ハ依て改湯ハ今も涌出其所を玉作湯町と云文意明白

なきて位のる者云。大初位と令ハ從八位下ハ初位の上也。續日本紀元明天皇和銅六年庚戌の紀ハ始て大初位上首と云。上腹と云氏なり。字誤ハ按ハ腹の字成べし。首ハ姓大人なり。押の字一本神蓋安来郷の文ハ見こる猪麻呂グ親族ハ。上小寺社山川池江通道通度驛路團烽戌各標題を記す。即本文なり。此標題關失て所々記する本も有。今ハ古本の如く谷あるす。舍人を山城ハ誤本も有

新造院一所。在山代郷中郡家西北四里二

百步建立嚴堂也。无置君自熊之所造也也イ

出雲神戶置君猪一本麻呂之祖也鹿一本

抄首三自清云國寺者
天平九年丁丑始建風工記
天平五年勘造由是觀之
非國寺寺注誤

在字例小依て補。此院と鈔云竹屋村有國分寺之舊基。
○新造と造建ていふ寺号なり院也。置君と氏かど自
熊と名此人出雲神戸の生猪麻呂が祖なるを註するなり。
○嚴堂と莊嚴の堂也。倭名鈔は金堂と云同
僧と令義解云俗人受公驗爲僧尼又云凡僧尼給公驗其
數有三初度給一受戒給二師位給三とて私小僧と成が
たし无僧とハ公驗を
受たる僧なり

新造院一所。在山代郷中。郡家西北二里。建

立教堂。住僧一軀。飯石郡。少領出雲臣弟山之

所造也。

新造院ハ鈔云有山代村于四王寺今者無之不知是乎否。
○教を鈔本嚴ヨ書。○少領と郡司大少あり弟山ハ名飯石郡
小少領外從八位下出雲臣とある同人也。續日本紀云天平
十八年外從七位下出雲臣弟山授外從六位下爲出雲國造
○記中寺を所建者出雲小住来し大領少領等也都人ハ何者
何者續日本紀六卷小郡司大領小領以終身爲限非遷代之任と云也。

新造院一所。在山國郷中。郡家東南卅一里。

一百廿步。建立三層之塔也。山國郷人置

部根緒之所造也。

鈔云有能義郡吉田村。觀音寺蓋是與。層字彙云。
重屋塔浮圖也。置部ハ神門郡置郷小々氏也。

凡佛像經論の皇國小度りしハ倭國磯城島金刺宮御宇天
皇御代欽明天皇十三年の紀小百濟國の聖明王のちうひみと
釋迦佛金銅像一軀幡蓋若干經論若干卷を獻と見えざる
初なる時小蘇我大臣稻目宿禰詔を奉りて佛像を小墾田
の家安ませ置おつり。向原の家を淨捨て寺しらとさす。是より
のち三十三年計を經る。譯田宮御宇天皇御代敏達天皇十三
年九月の紀小馬子宿禰示於石川宅脩治佛殿佛法之初自
茲而作と見え。次日磐余雙槻宮御宇天皇用明の紀小天皇
信佛法と見え。東宮廐戸皇子萬機をフサナタミ搃攝推古紀小十二年
四月皇太子親肇作憲法十七條と見え。其憲法專ら佛
法ふつなり給つり。かくて佛像を造り寺を建るを功ぞし。
南洲の坂田寺攝津國の四天王寺飛鳥の眞神原の法興寺
又峰岡寺元興寺金剛寺など推古紀又見え。諸國小寺
を建る夏ハ此時迄見え。同紀三十年九月小具録其寺

所造之縁亦僧尼入道之縁及度之年月也。當是時有寺四十
六所僧八百十六人尼五百六十九人と見え。又佛度傳小記
諸國小寺を建るふ年月ハ書紀小見え。又神龜五年十二
月金光明經六十四帙六百四十卷を頒於諸國國分十卷と
續日本紀卷十小見え。又神龜の始の頃ハ諸國小新造院
を建たり。天平十九年十一月小金光明寺法華寺等の
号始て見え。又國分寺大安寺の始ハ見及はず。此記
中寺を造人名僧軀迄委く記せしハ詔小依し成べし。

社
熊野大社

式云意宇郡熊野坐神社名神神賀云加夫呂伎熊野
大神擲御氣野命文德實録云仁壽元年九月擢熊野

杵築兩大神並加從三位三代實録云貞觀元年正月正三位同
九年四月授正二位杵築社各同位鈔云在大草郷中熊野村田
中社楯井社速玉社久米社者熊野社同地
○今見郡家正南凡今道二里半二社在

賣豆貴社 鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

由貴社 鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

加豆比乃高社 鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

玉作湯社 鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

夜麻佐社

式云。山狹神社。同社坐久志美氣濃神社。鈔云。在能義郡山佐村。下の夜麻佐社も同地。

賣豆貴社

式同鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

加豆比乃高社

式云。勝日。高守神社。按目耀津日高彦社。

由貴社

式同鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

都倅志呂社

式云。布辨神社。次都辨志呂神社。鈔云。在飯梨郡富田庄廣瀬。

玉作湯社

式云。同社。坐韓國伊太氏神社。古語拾遺云。櫛明王命。出雲國。每年調物貢進其王云云。この社小櫛明王命を齋成べし。古事記云。櫛八王命化鷄入海底。咋出底之波。迹作。

玉作湯社 鈔云。在山代。鄉中。伊邪奈枳。大神蓋是欽。

野城社

鈔云。有松井村。式云。野城神社。同社坐大穴持神社。次同社坐大穴持御子神社。又能義郡。天穗日命神社。出。以記野城。

伊布夜社

式云。揖夜鈔云。在筑陽鄉餘戶里。揖。

支麻知社

式云。未待鈔云。未待。鄉大森明神也。

夜麻佐社

山佐村。前註。

野城社

式同。一本野白。書。地違一本野字。脱。

久多美社

式同鈔云。称久多美大神。按忌部里久多美山。よみづし。

佐久多社

式云。同社。坐韓國伊太氏神社。

多乃毛社

式云。田面鈔云。屋代。鄉北。安田村。田面大明神也。

須多社

式同。黑田。馭須多。谷。須多。閑社。小註。

真名井社

式同鈔云。山代。鄉伊井奈枳。社。東瀧下社也。按天の真名。

鈔云。野白社。トル。本。ト。リ。在野白村。友田大明神。是也。ト。リ。ト。云。在友田山。久多美社。鈔云。主。東。忌。部。村。有。久。多。美。明。神。奈。大。已。貴。金。也。又。云。久。多。美。社。并。築。門。神。社。有。之。

支麻知社 鈔云。主。東。忌。部。村。有。久。多。美。明。神。奈。大。已。貴。金。也。又。云。久。多。美。社。并。築。門。神。社。有。之。

布部村
大明神二所大明神大山
布部村

井を移して大社を所すハ以井
也。丹後風土記曰比沼麻奈爲同

布部社

式同鈔云。飯梨川上布部村大神
也。按都傳志呂社同所也。

斯保弥社

式同鈔云。在母里郷井尻村市上宮之萱
中。小社也。

意陀支社

式云同社坐御
譯社鈔意陀氏

市原社

一本予原。式市原。鈔云。筑陽郷
餘戶里揖屋村市原大神也。

久米社

式同。一本來とある共末
の誤也。鈔云。熊野社同地。

布吾弥社

式同地
未考。

完道社

式同。鈔云。完道郷白石本郷石宮大神而有穴持
命。追來猪犬之石像之社也。るの由ハ完道郷に註。

野代社

式云。野白鈔云。野代社。同社者。乃木村當努貴大神及福富村
大神也。此記以乃木乃白福富曰野代。野城野白の地別所

賣布社

式同鈔云在
松江白肩津

狹井社

式云。佐爲鈔云。完道郷
白石村。牙谷之大神也。

鈔ニ此記以乃木乃白
福富曰野代。野城野白の地別所
仔細考之ハ此耳
トリ

宇流布社鈔云云至京
村三島大明神也本社在
于寺山奈大山祇神

狹井高守社

式同鈔云。狹爲同
處高守大神也。

宇流布社

宇一本字。鈔と一本字。式
守の字を書。地未考。

伊布夜社

式云。揖屋同社坐韓國
伊太氏神社揖屋村也。

由宇社

意字の誤。鈔云在黑田驛
出雲村芦高神祠之萱中。

布自奈社

式云。布自奈大穴持神社鈔
云。忘戶里布自奈村也。

同布自奈社

上小同。式ハ布
自布小誤。同同地。

野代社

上小註。野代
川邊ヨリ。

佐久多社

上小
註。

意陀支社

鈔本伊陀氏。式云。佐久多神社。同社坐韓國伊太氏神社。意陀
支。伊太氏を合考。小伊太支社。て。支をケリ。の約。五十猛也。

意ハ於のかあて伊ハ意陀支と大猛も同。紀伊國三井寺の
北。小伊太祇曾社。同神也。紀一書云。素戔嗚尊帥其子五十猛神。降於新

羅國と云。上の
意陀支も同神。

前社

式云。熊野大社。次前神社。次能利乃神社。次田中神
社。楯井神社。次速玉神社。以上六社ハ。鈔云。在大草

田中神社 田中神社 田中神社

郷中熊 野村

田中社

詔門社

村山大神也

楯井社

速玉社

紀一書云速玉之男

石坂社

式同鈔云靜坐於大草郷岩坂村神

石坂社 鈔云大草郷岩坂村神 納山伊佐奈美命神龜社也後遷坐 於新穀新菜云云又もとより國造と成べき始小先社に詣て御龜を 初小此社の御龜をわらふる云云 久佐日古命坐と云云文德實錄云仁壽元年九月青幡佐草壯丁命命授從 五位下鈔本大原郡海潮郷註云須我明神社古者在于須我後去良四 里計移祭意宇郡佐草村今八重垣 大神是也すばの里をも今八諏訪と誤言

佐久佐社

式同大草郷佐草村八重垣 大神也大草郷傳小青幡佐

多加比社

式云鷹日鈔云在于 山代郷中津田村

山代社

鈔云山代郷津田村中御山代大 神也○山代日子命坐事郷傳出

調屋社

式云筑陽 餘戸里云々

同社

式云筑 陽神社

宇由比社

鈔云地未詳○島根郡小宇由比濱云社ハ 意宇小屬云式外社ハ惣て考所なり

以上冊八所 並在神祇官

支布佐社

鈔云能義郡屋代郷吉佐村天津大神客大神式云天 穗日命神社也○按小支比佐加美高日子同神云

毛社乃社

誤字をべし 地未考

那富乃夜社

考未

支布佐社

上小 註

國原社

國の中原に坐社 鈔云地未考

田村社

村ハ群所田家近 鈔書地未考

市穗社

市一本吊一 本予鈔云在

同市穗社

市の字ニと木の誤 本穗訓能義

網也其後執方去十五町并祭 于大庭神祝大明神乃是也麻 古地日波于廟社者此謂乎

熊力利神社 東持 却譯 渡夜都牟自和氣 右田社式載之

伊布夜社

揖屋小在
上小註

阿太加夜社

鈔云由宇社同所。在黑田、駒出雲村。後合祭于芦高宮。按阿陀加夜

奴志多支吉比賣を斎所
小て地名小負う。意宇川の東

須多下社

下ハ開の誤。上の須多社ハ開字脱。鈔云。黒田、駒須多谷、白屋荒。刻之社也。

紀一書云。眞津桑戸と云。
以社ハ黄泉神の社成べし。

河原社

一本阿原。鈔云。大草郷
岩坂村、川原大神也。

布宇社

鈔云。拜志郷風宮
欣。按於宇の誤。

末那爲社

眞名井同所。諸
本末を未誤。

加和羅社

地未考。あ
和迹。あどの誤。

笠柄社

志多備社

地未考。葛葉集
小。あびのつみ

こ讀ハ黄泉使の支と聞ゆ。志多備と須多
開と同意成べし。又按田小水。あう。あう。野の社。て下。通。

食師社

食ハ飯を誤。大國魂
命の御膳。食給處を

飯梨と云。こ
上の文小出。並不在神祇官

以上一十九所

長江山鈔云云
俗稱岩船山有
玉大明神社

長江山郡家東南五十里

凡今六里有水
三十四町精

長江山ハ。鈔云。在于能義郡母里郷井尻村。中上小竹村。水精。
倭名抄云。兼名苑云。水玉一名月珠。和名美豆止留太萬。

暑垣山郡家正東八十步

有峰

暑垣山未考。黒田駒の跡近きいざ。あ。山小峰の跡。て其跡。白。似。た。ま。バ
俗人茶白山と云。所。古郡家より八十歩と云。叶。又烽火條云。暑垣峰。
廿里八十歩と云。廿里ハ誤成べし。暑ハ音の誤。

烽火和名度布比。卷末烽火の條註。

高野山郡家正東一十九里

凡今二里
廿三町

高野山ハ鈔云。大草郷岩坂村里上山也。
有安德天皇勅願之堂。

訂
音一本作暑誤也
見母理下八十
歩當作廿八里十
歩見暑未烽火
下但抄母理々
則當作三十八
里十歩

鈔云熊野山意平郡
大草々熊野里市熊
野大神鎮座山名也

熊野山郡家正南一十八里

有檜檀也所謂
熊野大神之社

坐

檜亦雅曰柏葉松身と云ハよくも當らず。地異なり。本も異なり。べし。
檀和名万由三。熊野大神ハ出雲神戶の傳ハ伊勢奈杵乃麻奈子。

坐熊野加武呂乃命と記し。式神賀詞ハ加夫呂伎熊野大神櫛御氣野命

に有。すさのをの命の御復成べし。出雲神戶の所と島根郡朝酌に註。社地

ハ郡家より凡今道二里十八町。意

宇川の川上ふゐて須我山と並。

久多美山郡家西南廿三里

有社一本柏。忌戸里山。
社。久多美大神社。あり。

玉作山郡家西南卅二里

有鈔云忌戸郷中湯。大谷山
社。〇社ハ玉作湯神社。湯邊に。

神名槌山郡家西北三里

依鈔本補。一百廿九步

〇整
押名槌野
郡家三

高八十丈。周六里卅二步

東有松三
方並有茅。

神名槌をわものもとてふ言の約也。玳山と山代郷いざなり。山ふつぎて
東と山代郷。南と野。西と野代川。小近く。北と大海に近し。〇以上。山七。

凡諸山野所在草木。麥門冬

和名夜。濁活。和名宇止。一
麻須介。云豆知多良。石

斛。諸本解小誤。ハを畧。下文同。和名須
久奈比古乃久須祈。一云。伊波久須利。

前胡

俗云。美豆婆久佐。和名云。
此胡乃世里とるハ別草。

高良薑

連翹

和名。伊多知久佐。
一云。伊多知波勢。

黃精

和名於保惠美。
一云。夜麻惠美。

百部根

和名。保止豆。
良。一種有百

貫衆

和名。於途。
和良非。

白朮

和名。平久良。
亦名山薺。

暑預

和名云。一名山藥。夜萬郡以毛。
俗云。山乃以母。字鏡云。山伊母。

苦參

和名。久良々。一云。ミラノネクサ。
云。末比里久佐。

細辛

和名。美良乃。称久佐。一
云。比木乃比太比久佐。

商陸

和名。伊平須木。
按俗云。山牛房。

藁本

和名佐々波曾良
之云曾良之
玄参 和名於之
五味子 和名佐加豆
黄芩 和名比良木
葛 和名佐々波曾良

根 和名久須加
牡丹 本州云一名鹿韭
神武紀歌个游羅和名布加美久
佐並小牡丹の字を當る也字彙云韭
藍 字鏡 阿井 漆

和名字 薇 薇蔵ニ音和名和良比字
鏡云蔵和良比薇万可古
藤 和名布知
李 和名須毛
檜 字或 檜和名比字或作
梧 梧古入一本書入同

杉 字或 杉和名須木 檜古事記檜
作 檜と並べ又二候檜の書
赤桐 白桐 一本白梧和名云桐
有四种和名皆木里 須乃木

推 和名之比字
鏡奈良の木
海 石 榴 字或 榴島根郡より出○石を補
楊梅 和名夜奈木
梅字女 松 和名萬豆
栢 字或 栢和名加開 栢同
檠 字鏡 黃檠 支波太
槻 和名豆 禽獸

則有 鷗 和名於保和之
晨風 字或 隼 字鏡 波夜不佐和名
鷗ハ夜布佐隼訓同
山鷄 和名夜 鳩 和名夜 萬八止

鶉 和名字 都良 鶉 字或 作 和名雲雀 比波里
漢語抄 鶉鷄訓同
鳴 鷄 作 橫 致 鷄 和名止 比
也 鷄 字鏡 保止

止鈔本 熊 和名久万 狼 和名加美 猪 和名井
鹿 和名加私記 杜鹿 佐平之
加北米加其子云鹿兒
兎 和名字 孤 靈異記 岐都祿

飛鼯 和名毛美俗 字或 作 字彙云 鼯一名鼯鼠
名飛生 蝠一名飛鼠
獼猴 和名後佐留兼名 花云一名獼猴

之族至繁多不可題之 島根郡の産物なり
不可尽名を書り

伯太川源出仁多与意字二郡堺葛野山流

經母理楯縫安來三郷入于海伊久比魚

伯太の訓波多河源母理郷ニ畑村有久陀訓齊明紀備前の大伯を倭名抄
小於保久と訓で里人ハ白田川と云川下ハ安來郷ニ海入鈔云母理郷并尻

四十二

信友云神祇伯頭仲朝臣ノ
哥ニ海火の光ふまふ王
藤ふはうぐいのをしか
くむすうぐいのをしか
ひを鶏喰ニ云ケタリ

山國川源出郡家東南卅八里凡今五里十町枯見山北

流入伯太川

流一本海ニ誤。鈔云山國川者能義郡吉田川也。枯見山者同郡宇波村大谷山也。此川經於宇波柿谷折坂野方澤村吉田月坂赤崎切川等數村合于母理川。

飯梨川源有三一水源出仁多大原意字三郡堰田原一水源出枯見一水合北流入于海伊具比

鈔云飯梨河即今之富田川也
一水源出自田原村往東南七十里到千比田村又往自其西南五十里到千大原郡上久野村也。水源枯見能義郡宇波村山名也。一水源出自玉嶺山能義郡比太村与仁多郡龜嵩村之堰。即龜嵩山名也。山水合為富田川北入于海。

筑陽川源出郡家正東一十里一百步一本

山北流入于海有年鈔云餘戶里伊東村之川也。調屋社也。秋山者與伊東之山名。海心伊東の海也。

意宇川源出郡家正南一十八里熊野山北

流東折入于海有年魚伊具比

意宇川ハ鈔云經於岩坂日吉大草阿多加夜等也。故俗云出雲川大草川大庭川。十八里之今の二里十八町熊野社ある所。東折二字ハ鈔本ニ依て補。

大草より折て東に流る。流入所ハ阿多加夜の海なり。奈良京の時門部王出雲守めて下り給ひ思京歌とく萬葉集三の巻に飯宇海乃河原之乳鳥汝鳴者吾佐保河乃所念國と讀み以川邊小國聽みなり佐保川と大和國
○伊具比を今も以此所小國廻せ時大庭の得國此川は魚つてしを思ふ異に勝り

野代川源出郡家西南一十八里須我山北

流入于海野代川を鈔云乃忌戸川也自大原意宇二郡之堺海潮郷須我山出經於忌戸乃白乃木等入于海而乃白福富乃水三升古終言野代故稱野代川

王作川源出郡家正西一十九里志山北

流入于海有年王作川ハ鈔云此川出於湯泉忌戸郷自大谷出經王作湯市王作湯北流入于海也并字補并志郷の山名なり

來待川源出郡家正西廿八里和奈佐山

西流至山田村更折北流入于海有年

來待川ハ鈔云自意宇郡和奈佐山出經於菅原佐倉大森自於東來待与西來待之中間落北流入于海○山田村ハ今の菅原也田のその宿祢の出給し慶歟○來待ハ廣き郷なり鈔云以和名佐佐倉大森多根菅原五ヶ所云上來待以鏡村長弘寺村濱村三村云東來待以大野横見小松三ヶ所云西來待

完道川源出郡家正西卅八里幡屋山北流

入于海無魚

完道川鈔云自意宇大原二郡之堺完道郷中金山谷之真出經於金山坂口完道自完道佐多布之中間北流○以上流九

池津間拔池周二里卅步有鳧鴨

和名抄來待郷
鈔云和名佐佐倉大森多根菅原五ヶ所云上來待以鏡村長弘寺村濱村三村云東來待以大野横見小松三ヶ所云西來待

卅歩ハ古本ニ依、鈔本四十歩一本ニ三十歩。津間抜池ハ
鈔云有山代郷乃木村。〇鳥ハ字鏡太加戸

眞名猪池周一里北流入海

流字元本ハ非、予々例ニ依、補鈔云在山代郷
天田村北入海門。ある井ハ社の所ニ註。

門江濱伯耆与出雲二
門江ハ鈔云能義郡門生吉佐兩所之海濱
伯耆イダを過て出雲の方西ニ行、右小海也。

粟島有推松多手木
アハシニ
有推松多手木
宇竹真前本前作嶋

粟島ハ鈔云門江濱同所。〇多手木と俗云アリキバ、私紀云、穂阿波木、唐
韻云、檀、万年木と云て、水ハ葉ハ別種なるを、倭名鈔ニ阿波木ハ檀木の二名
と見え、字彙小穂又名萬歲樹と見え、その水日向の海辺ヨリ、其所
を阿波支原と云、宇竹未考、真前、古本を用、諸本真埼鈔本ハ小十
書紀真折訓万
二字あり

砥神島周三里一百八十歩高六十丈有推
カミシニ
有推

荻頭蒿都波師
山イ高イ
荻頭蒿都波師

太等草木也
太等草木也
砥神島鈔云安來郷之海磯。〇高六十丈と山のなり、其の度なり。記中高と
各直立ちのあり。〇葦和名阿之。〇荻頭蒿和名小薺蒿。一名荻蒿。於
八木、万葉小字波疑。〇都波ハ葉路ハ似て、花ハ黃梅の如し。冬咲。

加茂島既
カモ
既ハ盡也。鈔云有鴨島子島者。砥神山与羽島之中間ニ云

子島既
コシニ
鈔本加茂島子島羽島鹽指島の本文あり。曰不見于此
記且記所見耳と云。

羽島有椿比佐木多
ハシニ
有椿比佐木多
羽島鈔云能義郡飯島村之磯辺也。此
村蓋古海中也。天平之後漸埋成民村。

椿和名豆波木漢語抄小海石榴三字を用。比佐木和名楸字を用。
○多年水アヲキ、巖ワラビ、前小註。

鹽楯島シホタテシマ有レ蓼螺子シロネ。鹽楯島鈔云山代郷間瀉村也手間天神坐。
○蓼螺子和名仁之永蓼一本の書入あり。

野代海中ノウミノウチニ蚊島カニ周六十步中央濕土四方並

磯イソ中央有レ毛掬ケラツツ許木ハカリノキ一杵ヒトモト。

訂耳其旧本作昔日以僻按改之
イ田ヲ田ト作リ
イ茸日磯有板有螺子海松

蚊島ハ野代海中より夏勿論あり野代海中の四字例は違ひ書入成べし鈔云
蚊島在干山代郷乃木之海中俗云婦島又云天平の頃ハ出雲の大河神門の水
海小流も入て意字の海ハ潮海あり故以島小螺子海松等の物あり後小
寛永年中洪水流く大河この意字の海ハ入し今ハ此島ハ潮海の産
わしこ云云
○茸日磯ハ多加比社の所は近し。○海松和名美流

自茲以西濱或峻堀或平土並是通道之所

經也以西ハ野代濱より突道小至る
通道意字郡中の正西道をさす。

通國東坂手間刻冊テニノセキ一里一百八十步凡今五里

廿八町手間ハ伯耆國の郷名。刻ハ出雲國小置職負令云刻塹柵之處。通度
小自國東坂去西廿里一百八十步至野城橋又西廿一里至國廳意字
郡家北十字街駁路合カサ通大原郡坂林垣峯ハイガキノミネニ卅一三の誤
諸本通道字本文小混。

里二百一十の步凡今四里廿四町餘。林垣を大原の通道小水垣
字脫と書又并志郷ハ林て言ふ。以峯近き所あり。

○通度小正西道自十字街西一十二里至野代橋又西七里至玉作街
分為二道正南道一十四里二百一十步至郡南西坂云云惣三十三里

信友云堀川百首ニテコレも
ホモレしかども八雲とつ手間
の関わも秋ハコもハ六帖
ニモコレも人エ見や
我コレをコレめか様て手
間と名つけし谷川古清曰
手招ノ古語ナルベシ古事
記ニ伯伎口手間山本ニ
傳名抄會見郡ニ天萬
アリ出雲ト隣リ

二百一十步也。通度。通道。驛路不合者。通度。小註。

通出雲郡。坂佐雜。埒。卅二

里卅步。

佐雜ハ穴道郷中也。穴道の程卅七里。坂ハ鈔云。伊自美村。与佐々布之坂。乃此佐加惠谷也。二里ハ七里の誤。通度

を考ふる。凡卅八里也。取程自黒田。取正西道三十八里至穴道。取此。

通島根郡。坂朝酌。渡

四里二百六十步。

當今廿四町六十十分之二。通道四里二百六十步。是す。乃枉北道也。朝酌ハ島根也。

根。郡朝酌郷福富村之中間。渡頭也。云云。

前件一郡。入海之南。此則國務也。

務。政務ツカサリ。一本。廊。共ハ廳の誤。黒

田小國廳。

郡主司主帳

无位海臣。无位出雲臣。

郡主司主帳。コナリ。テハミナ郡主帳アリ。一本。郡主司主帳。コナリ。テハミナ郡主帳アリ。一本。

少領從七位上。勲業出雲臣。

主政外小初位上。勲業林臣。

擬主政。无位。出雲臣。

郡司ハ兵衛の時務を理。小堪たる者。を度分す。大領。小領。主政。主帳。すべし。郡司。云々。選叙令云。郡司。取。性識清廉。堪時務者。爲大領。小領。

主帳ハ軍團及庶人の書文。堪る者。を取。選叙令云。強幹聰敏。工書計者。爲主政。主帳。軍防令。主帳者。取。工於書算者。云云。

小領。掌大領。同。郡。云々。一人。選叙令云。大領。外從八位上。小領。外從八位下。叙之。田令云。郡司。職分。田大領。六町。小領。四町。主政。主帳。各二町。

位。官位。令義解云。一品以下。初位以上。曰位。田令。小位。田。り。勲。七。功。官位。令。勲。一。等。より。十二。等の。勲。位。を。考課。の。試。より。賜。文。位。也。

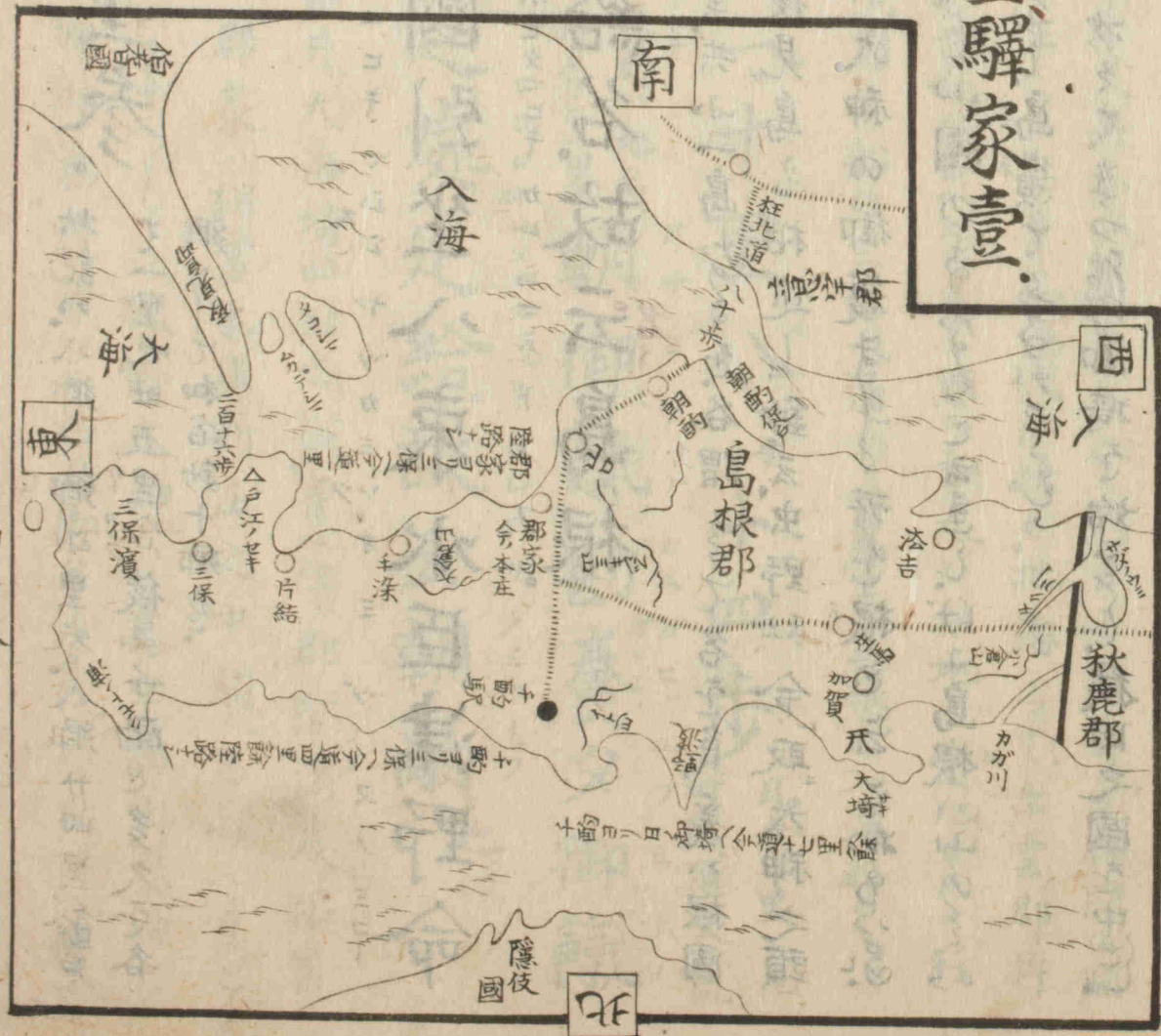
日本紀。孝德天皇。大化二年。三月。郡司。並。取。國。造。性。識。清。廉。堪。時。務。者。爲。大。領。少。領。強。幹。聰。敏。工。書。算。者。爲。主。政。主。帳。云。云。郡。司。主。帳。コ。ナ。リ。テ。ハ。ミ。ナ。郡。主。帳。ア。リ。一。本。郡。主。司。主。帳。コ。ナ。リ。テ。ハ。ミ。ナ。郡。主。帳。ア。リ。一。本。

○業と職負令を按る小文章生の得業者を云。江家次第除目條云。諸道
 得業生云々。又云。文章生多任。北陸道山陰道。こあるハ唐船の来著故あり
 ○擬々ナゾラフ。諸本慨疑小誤。令義解云。官者大臣以下書史以上。
 ○國司郡司の更。國郡の大小小依。大國上國中國下國。大郡上郡中郡下郡小
 郡。官人各定。更。職負令小委。大小の分。と目錄。註。續日本紀天平七年
 五月の御定ハ。令の負より。更。實龜延曆の頃ハ上件御定め。變。と増減。を。
 ○海臣ハ海の上。字關。記。孝靈段。小角鹿。海直。開化。段。小忍。海部。を。を。
 ○出雲臣ハ姓氏錄右京神別。云。天。德。日。命。十二世。孫。鷄。瀦。命。之後。云。從
 年。小。出。出。雲。人也。臣。訓。於。美。大。身。の中。畧。續。日本。紀。文武。天皇。二年。云。從
 五位。下。出。雲。伯。賜。臣。姓。是。より。以前。天。武。天皇。十三年。十月。作。八。色。之
 姓。真人。朝。臣。宿。祿。忌。寸。道。師。臣。連。稻。置。と。日本。紀。小。見。え。り。
 ○林。臣。ハ。拜。志。郷。より。出。る。姓。ある。べし。諸。記。は。出。る。内。宿。祿。の。末。林。臣。ハ。は。り。し。
 郡。司。多。ハ。國人。あり。續。日本。紀。元。明天。皇。和。銅。六年。曰。大。領。小。領。以。終。身。為。限。非。選
 代之。任。と。見。え。る。も。

島根郡

合郷捌五、里廿、餘戸壹、驛家壹。

山口郷 今依前用
 朝酌郷 今依前用
 手染郷 今依前用
 美保郷 今依前用
 方結郷 今依前用
 加賀郷 本字加々
 生馬郷 今依前用
 法吉郷 今依前用



和名抄云久々アリテト云
鈔云所謂多々者謂武谷近
世因福寺今多白土多々下
多々乃佐太川上流又右社

以上捌郷別里參

此記ハ八郷一郷ふ里參八郷廿四里餘戸
一里也廿五里合後ふ千酌と多久を各
郷にて和名鈔十郷有

餘戸里
千酌驛家

所以号島根郡國引坐八束水臣津野命

之 詔而負給名故云島根

出雲小縁記云上吉
なまのこゝに坐す
こと南國の島根より
うつり乾比の方の島根
小浮の島より神の島
居とある故は島根山國
と云浮浪山ともなつ
其後三郡はさうなる
根郡楯縫郡秋鹿郡
島根は續く秋鹿楯縫出雲共一島なるを各謂めて名を負爰ハ根國
か聞見國即夜見國あり夜見島も相近し鈔云虫野社令取大神之頭
虱之所と云是是より大神の御寢まゝ所を根と云こゝの
ゆる人の云根國てゝハすべて山國のなるをいふ
國あり三保の方ハ陸路さへあり島嶺てあるなり
おみづめの命は國引給ふ次々もきつたの御埼を始とし挾田之國を中じ

一本朝酌列于山
口目録合

朝酌郷郡家正南一十里八十四步

凡今一里十九
町餘通度不同

熊野大神命詔朝御籬勘養父御籬

勘養五贅緒之處定給故云朝酌

鈔云ハ郡中諸方所經之路程
方聞而今昔考之此郡家者
今本庄新庄西村中路云當矣

朝酌ハ鈔云朝酌福富大井大海埼四村也從意宇郡間瀉渡福富
村之渡頭曰朝酌促戸。郡家ハ相當本庄新庄之中間。こゝに
古今道同じかず本庄なるべし。熊野大神ハ意宇郡出雲神戶
小註神賀詞小熊野太神櫛御氣野命とあり御名の義ハ此所の傳小

○御籙ハ御食物。勸養ヲ神籙也。祝詞ハ汁母籙カヒ母ホ籙ホ母ホ籙ホ母ホ籙ホ月次祭ハ皇御孫命乃朝御食夕御食ナ加牟加比カハヒ云云不同。五種物又五色物イツンタツモリの五小同。贅ヱトカリ文ハ大者玉帛といへど、皇國ハ食物ハる詞ハて、剪鑿の言ハ畧なり。

○緒ハ組ノ結の誤字あるべし。贅緒と云ふハいさぐさず組あはる字彙云。組草名爾雅云東海有之通志云論鹿角菜組海中苔今之紫菜と云々王篇小組を久美と訓たまむ五贅組之處イツンノトコロこむべし。職負令大膳職云醢殖義解云醋菜曰殖やうもゆきを組ハ今の世のヒタシモノの類あり。按ハ結を緒ハ誤る所下文ハゆきバ、かくも結ハて五贅結之處イツニエノトコロこむべし。文意ハ御食田の結組ユミクミする處とも聞也。由比ハ田業する民ごら互ハ助合々殖るをいふ農家の常言あり。近き世の御製歌ハあの里ハひそる人のなまやらいそしたにおろふさぬへぞりぬそ。おも詠をよつ。ゆひする農家のさゝハ

五町弱

孟子曰郷田同井・出入相友・守望相助・疾病相扶持・則百姓親睦と云も似たり。萬葉集に標結シユラも結ユヒ之辱ハヂ爲都ツなとを田家の由より出たる言葉。○酌シユミハかり字みて組合グミとりとミ又贅組のくみも同なりきて此處を大神の朝夕の御食所ミケに定多し古傳なり

須佐能烏命御子都留支日子命詔吾敷

坐山口處在詔而故山口負給

詔而負給故云山口と云(き)を文例方路云今律村當矢加文代一り。山口ハ郡家正南布自枳美
山の南の山口あり。鈔云東川津方路云今西川津川原西尾四村也。其の山の項は
布自枳美社有俗クニヒトタケノ嵩大神と云

○都留支日子ハすきのをの命の天まで
宇計比志給一
時御劔小所生^{ナリセ}

坐神をかくいひ傳へたるに依るなり。敷坐といふ領地を知食を云。祝詞の敷坐島敷坐國とあるは同

手深郷郡家正東一十里二百六十四步今一里

所造天下大神命詔此國者丁寧所造

國在詔而故丁寧負給而今人猶誤謂手

深郷之耳即在正倉二百六十八步今二十

誤を今本詔に誤謂字ハ鈔本に依て補。手深ハ鈔云多須見長見野原別所下宇部五村也。此郷の名ハもと多志と負たるを風土記を造りたる天平の頃ハ多志美と誤り謂ひたるなり。今世ハ多須美村と云ハ又後ハ誤まるなり。丁寧ハ宜長云。愷の意なり。按古事紀雄略段哥ハ

多斯介波韋泥受又さうふうつやありの多志陀志ルなる多志子同。此國ハ手深郷をさす

美保郷郡家正東廿七里一百六十四步今三里

所造天下大神命娶高志國坐神

意支都久辰爲命子倭都久辰爲命子一本

奴奈宜置波比賣命而令産神御穗

須二美命是神坐矣故云美保

子に置ハ衍文美保ハ鈔云関村福浦西者森山東者雲津諸食等。為三保郷森山舊曰横田則有横田社又三保難磧十八町東俗有

鈔云所謂志羅記乃三保又高志乃都三保者共指三保郷見

言島之神處乃事代主神在于此島與
蓋大己貴子事代主命於此島作釣美射鳥之遊遠云
自此泊迄千雲州爲前八里迄千同州
爲後三千里之海路也

○み保須ニ美命坐故美保と名ヲ負裔神ハ社の所ヲ註

○高志國ハ三越國なり大穴持命高志國ハ娶ツミヒ給事記ヲ見又

古志人來りて住一故神門郡ハ古志郷ニ意字郡母理郷の傳ハ

越ハ口を平給るも見えたり

○意支都倭都ハ海と邊みて夫婦二神の名ヲ記の奥津那藝佐

昆古邊津那藝佐昆古のおきへの類ひなり一記ハ高志國沼河比賣

とあれ是神の親神なり一久辰爲を神門郡ハ久奉爲と書社の名

言のさハ知一奴奈宜波比賣ハ沼河比賣なり沼河城郡越後奴

奈ハ沼中神功紀ハ大津渟名倉之長峽とある地ハ津國住江みて沼

中ハ座る所を云下文ハ野浪濱も上代天皇の御名も御子等

渟中原瀛ヌナカハラオキ沼名木と負給ふありの御名も

○美保須ニ美命ハ浪秀進なり沼河比賣の産給御子を舊事記ハ

建御名方神と記せり是神の亦名なり一又事代主神出雲の

三保之埼ハ鈎魚オウラス古事記日本紀とも小同く見えたり此神の

御事ミコトコトおもひなり事代主の御母神ハ神屋楯比賣と記見えり別也

御名の義を試み祖神のおきつ辺津ハ海の沖辺母神の奴奈宜

波ハ沼中河其子美保須と弟ハ浪秀進みて海の業ハ堪たるを名ハ

負ませり古事記ハ千矛神將婚高志國之沼河比賣とあれハ奴

奈宜波ハ沼河ヌナカハラなるる明らけ

方結郷郡家正東二十里八十歩今今二里須佐

能袁ノヲノ命御子國忍別命詔吾敷坐地

者國形宜者故云方結

國形の下ハ落文なり一者ハ詔の誤ハ校本數多のうら異なりハち

○國忍別ハ古事記云、大國主神、御子鳥鳴海神、御子國忍富神坐、此神を出雲みて、須佐能鳥命、御子と云傳へ成へ忍別ハ忍許呂別小同、建きをいふ
○國形の下心得り、試小い、エイトユヒと通へ、宜と結と通訓て方ユヒと負、エシ、ヨシ、エキヨキハ本言、エイトヨヒと下小イを云ハ常言なり、又按、國形結と詔り、カタエヒ冬、寄めて此郷の南ハなづき、北ハ山を負て、甚行あたる所あり、さてヨリといふべきものをユヒといひ、哥天平以前の言小多くある、されど是ハ加多由比といふ謂、ご人の詞小残りて、多べきを、此郷を廻し、時ハ浪風いゝ吹立て辛苦して、其謂をもとむるに、残多し

加賀郷郡家北西二十四里一百六十歩今三里

佐太大神所坐也、御祖神、龜命、御子、支

佐加比比賣命、諸本佐加知賣命、書今鈔本小依補闇岩屋哉、詔金弓

以射時、光加二、明也、故云加二、賀イ加イ

此條諸本主馬の文と混して、今一本と鈔本に依て補記

○加賀ハ鈔云、加賀浦大蘆御津等也と云リ、此ハ神埼、下文神埼岩

屋の傳小詳、佐太大神の佐太ハ地名、意宇の文小狹田國と云、後世小

郡の分きて、佐太社地ハ秋鹿郡の東坂、加賀ハ島根郡の西坂、小属、共

小大神、數坐地なり、ハ大神所坐と云、御名ハ地をもて、稱まをせ

實の御名ハ知、熊野大神能義大神の如、委佐太社の所、註

○神龜ハ加美牟須昆と訓、祝詞小神魂高御魂と並給ひ、記小神

産巢日神、姓氏録小神御龜命と云ハ正しく、神須比命と云ハ畧なり、

世小生と生る、そのハ此神の靈小なり、祖神と云

○支佐加比比賣ハ、記小大穴持神、焼つゝ死、其時、其御

法吉郷郡家正西一十四里二百卅步凡今二里

神魂命御子宇武賀比カミハスヒノミコトノ賣命ウツメノミコト法吉鳥化ホホキドリニナリ

而飛度靜坐此處故云法吉テトヒワタリコニシツマリマシキカレホホキトイフ

信云法吉ハホホキトナル法吉
其音ホフサチホホキハ鶯
ノ聲ヲモテ名ニ與セシ
後此ハ鶯ノ聲ヲモテ名ニ與セシ
西行ハ鶯ノ聲ヲモテ名ニ與セシ
トイフ故田舎人ハ鶯ノ聲ヲモテ
云フ又ウケヒスハ鶯ノ聲ヲモテ
コニ用ナクハイヌノ聲ヲモテ
法吉ハ鈔云合法吉春日末次為一郷宇武賀比賣命度所座者法
吉村中宇久比須谷也トナリ法吉を保々文と訓法吉鳥ハ鶯の
と云ふる宇久比須のふまハ万葉集天平以後のおもひえたり凡
己ウサリをもて名ヲ負ハ鶯ハ覺賀鳥ワシガトリ蟬ハセンセン虫の類なり
○宇武加比比賣の比ハきさかひひめの例めて古事記小比賣と云を
もて補如是御名小負給ハ大穴持神のやけと小比賣を葉とつけて活
給ひ古事記云余八十神怒欲殺大穴年遲神共議而至伯伎國
之手間山本云赤猪在此山故和礼共追下者汝待取若不待取者

必將殺汝云而以火燒似猪大石而轉落余追下取時即於其石
取燒著而死尔其御祖命哭患而參上千天諸神產巢日乃命時
乃遣蜺貝比賣與蛤貝比賣令作活余蜺貝比賣岐佐宜焦而蛤
貝比賣持水而塗母乳汁者成麗壯夫而出遊行と云小ウサリ
の四名始て云々
○ウサカヒをウサカヒウサキと云る蛤貝也和名小字無木乃加比と云る加比重
字鏡小字字年文と訓

餘戸里アニリベノサト說名如餘戸里鈔云古郡家而木庄新庄邑生上宇部尾
意宇郡村也○意宇郡餘戸里小神龜四年編戸云云此記ハ

天平五年小記終る其間六年
計りて神龜の定め之餘戸なり

千酌驛郡家東北一十九里一百八十步凡今二里

鈔云意宇郡餘
戸里有方路此方路
又按和名抄有多久々
無餘戸里蓋餘戸
後有多久也
自云曰郡家故不言
方路里程也

信及多猶ハ訛ノ誤ヲ示スル也
猶字ノ略體猶ト書ルル也
トアヤニルル也

町伊佐一本奈枳命御子都久豆美命此處

生然則可謂都久豆美而今人猶千酌号

郷耳訂

生諸本坐子誤猶ハ誤字リ諸本同今改め郷ハ鈔本耳字を書
○千酌ハ鈔云東西北浦併千酌笠浦瀬崎野井野浪等為千酌
此駅より隱岐島前迄海路可十八里島後迄三十六里都久豆
美の都久ハ地名もて都久美持なりツと千通ハ後人千クミと云
波多都美伎自麻都美の名も同又按いさなき乃命の御子とあ
まも月持めて月夜見命リ是命ハ古事記所知夜之食國と
みも紀一書カテ天照大神在於天上曰聞葦原中國有保食神宜
爾月夜見尊就候之月夜見尊受勅而降ともあはれなり

社布自伎弥社式同鈔云在山口郷布自伎美山嵩大神也山口

多氣社式同布自伎美山在久良弥社鈔云久良弥社同社在餘

同社波夜都武志別社式同別字脫文德實錄云仁壽元年出

川社社同鈔云在山口郷布自伎美山嵩大神也山口

門江社式同鈔云在山口郷東川津村

加賀社鈔云加賀自灘磯地神埼窟戸中所產生

都久豆美命伊弉
諾命伊弉丹命
介佐能為社
式云介佐能加志能為千酌
中野井浦神守大神也

法吉社

式同。鈔云祭宇武加比賣命。法吉郷大森大神也。註法吉郷。

生馬社

齋于生馬郷。鈔云祀於八尋鋒長依日子命。

美保社

鈔云齋三保郷御總須々美命御祖以上十四所。式十四座合。大穴持命。奴奈反知波比賣命。三座並在神祇宮。諸本落文多。

大埼社

鈔云祀伊弉冉命於賀郷大蘆浦。曰母坂大神。

大埼川辺社

鈔云大埼社同所國師大神而祀伊弉諾命。

朝酌上社

鈔云祀伊弉冉命。朝酌郷大森大神。

同下社

鈔云上同郷多賀大神而合。祀伊弉諾命与熊野大神也。

奴奈弥社

鈔云野浪浦。久仁戸志大神也。

掠見社

鈔云鎮座新庄村。久良美谷山頂大神也。金指教。

大井社

鈔云朝酌郷大井村。七社大神也。祭大國主神。

阿羅波比社

鈔云法吉郷中原村。照床大神也。社家者。

之言。合祭少彦名。高產靈。天照太神。素戔。鳥命。大穴持神。紀云海光依來。故号照床。故号五所明神。

三保社

鈔云並記事代主神同第百八十神。

多久社

鈔云多久郷講武谷。神多久。本社也。

蛭蟻社

鈔云俗云大根島社也。一社。地神。一社。三社大神也。

同蛭蟻社

地同上。和名海蛭。太古註蛭蟻島。

質簡比社

三保。辺質簡比浦。訓未考。鈔云太大神志大神也。

方結社

鈔云方結郷。江浦伊比都加大神而祭。國忌別命也。是神方結郷を敷坐事註上。

玉結社

鈔云方結郷。玉江大神也。

川原社

鈔云在山口郷川原村。二社大神也。

虫野社

鈔云風野里。福原村。虫大神者。蓋大穴持命号葦原邑許男之時。今。

持田社

鈔云持田村大宮大神而天。太玉命縣大宮比賣命也。

加佐奈子社

鈔云笠那志大神。而可爲素戔鳥命。

比加夜社

鈔云風野里福原村坂本村之社也。

掠見社。下。八。上。五。所。並不在神祇宮。上。下。八。上。五。所。並不在神祇宮。上。下。八。上。五。所。並不在神祇宮。

須義社鈔云千酌歌中北浦須文濱大神也

伊奈頭美社鈔云須義同所奈之久良大神也下文有稻積濱

伊奈阿氣社鈔云伊奈都美同所麻仁祖大神也按下文大島を俗云麻仁祖山也 御津社鈔云加賀郷今水浦本宮也

比津社鈔云生馬郷比津村都支努貴神社也 玖夜社鈔云玖夜二社生馬郷國屋村久羅加氣貴利阿氣二社也

同玖夜社同 田原社鈔云法吉郷春日村田原谷社也近世徙真谷村曰春日四所明神於今号田原谷於本宮

生馬社鈔云西生馬村大岩大神也 布夜保社鈔云生馬郷十町計南去佐田村松尾社也訂云今松尾社是也

加茂志社鈔云生馬郷西佐田村鴨子大神也按神龜命加牟須昆の年を母子轉須昆約り志なり 宇郡岩坂社社をもカモレと云

一夜社鈔云在多久郷分村一夜太神也 小井社鈔云在多久郷名分村御井社也記云木俣神亦名御井神

此云云彦火出見等

此草周一百歩許上有一株老松因築教抱之神木也以云云大勝間社云哉吾勝等

加都麻社鈔云在多久郷名分村加都麻山 須衛都久社鈔云松江城下末次大神也今人ニ又キト云旧名スエツク

以云云末次大明神並野三夜

以上卅五所並不在神祇官

山布自枳美高山高山也 郡家正南七里二百一十

步二町半 高二百七十 丈二百七十依 周一十里有

鈔云云和久羅山在朝野二保山同上

布自枳美山ハ鈔云跨山口朝酌餘戸則東川津嵩山也合奈布自枳美多氣二社於山頂今俗云嵩大神有烽火條子出且例子依て補

女岳山郡家正南二百卅步鈔云在布自枳美之東新庄村中

風野一本 郡家西南三里一百步無樹風野里小水出野社あり

鈔云合福原坂本日由里明
曆年中忌出原名改福原

毛志山郡家北一里

一三三、水草川源出三里一百八十步毛志山云云
蓋風野中の山欽鈔云本庄村之川上也福原坂北山也

大倉山郡家東北九里一百八十步

十字元
本より

大倉山ハ鈔云手添郷長見川源
今枕木山觀音堂之東山名也

系江山郡家東北廿六里卅步

系江山ハ鈔云野浪川
上山也系字關る本も有

小倉山郡家正東廿四里一百六十步

小倉山ハ鈔云跨加賀大蘆講武
持田四村加賀川多久久之源也

允諸山野所在

所在二字諸
本互小落

草木白朮麥門冬藍漆

五味子苦參獨活葛根薯蕷預臬解

和名藟土古呂
漢語抄野老本

草算薺古事記
登古呂豆良

狼毒和名夜
麻久佐

杜仲和名波比未由美本中註云杜仲一名木
綿折之多白絲一萬葉集云可頭乃木

和名波比未由美本中註云杜仲一名木
綿折之多白絲一萬葉集云可頭乃木

芍藥和名夜比須久須
里字鏡山佐介

柴胡和名此胡乃世里一名阿末安加奈
藥性書柴胡阿末阿加奈柴一本紫

和名此胡乃世里一名阿末安加奈
藥性書柴胡阿末阿加奈柴一本紫

苦辛出重
參イ

百部根石斛

和名石斛須久奈比古乃
久須祿一云伊波久須利

藁朮藤木子赤

桐白桐海柘榴楠楊松栢禽獸則有鷲

字或
作鷲

阜

阜の誤鈔本集意宇郡子鷲晨風作阜
飯石郡子八鷹阜山雞鳩雉とて同

山鷄鳩雉猪鹿猿飛

鼈 註たろしものハ
前より出下同

川水草川源二

一水源出郡家東北鈔本三里一百

西北六里一百六二水合南海流入于海

有二十水ハ毛志山の西より流山口郷東川津村まで合西川津を經て南の

長見川源出郡家東北九里一百八十步大

倉山東流

鈔云從長見大倉山出東流到于
杆田大神之社前与大鳥川合流入于海

大鳥川源出郡家東北一十二里一百一十

オホトリ
大行本
文下

步墓野山

ハカ又
鈔云長見
与北浦邊

南流二水合

鈔云至持田社
前与長見川合

東流

入于海

二水ハ長見与大鳥源ハ大倉与墓野
鈔云二山之間隔十六町五十間也

野浪川源出郡家東北廿六里卅步

凡今三里
廿二町半

江山

鈔云野浪
村之西

西流入于大海

于字无本ハ非○野浪ハ
千酌馱西大海ハ北海

加賀川源出郡家西北廿四里一百六十步

小倉山北

流入于大海

加賀川多久川混たる本ハ非鈔云
此川經加賀郷別所谷北流入于大海
水源小倉山既見上

多久川源出郡家西北廿四里小倉山西流

鈔以云云和名抄有多久也指
因福寺今日講武谷是也昔
綱隆君寬文年中狩于此
改因福寺曰講武也
按三綱隆ハ赤江城主松平
出羽守主也

池城

入秋鹿郡佐太水海以上六川

並无魚

諸本多久川脱又秋鹿より下文加賀川の文小混ハ非也秋川を秋鹿郡にてハ
佐田川と云鈔云經佐田船見橋以入于水海と云ハ今の橋場を云

法吉坡周五里深七尺許有鴛鴦鳧鴨鰒須

我毛當夏節尤有美菜也

法吉池ハ鈔云今俗云知者池。坡和名抄豆々美鴛鴦鳧之鳧太加戸
鴨加毛鰒布奈按ハ布々もこより秋魚の名又字音ハ未考奈々

食物ハす時魚物野菜もハ奈と云須我毛ハ藻の一種あるべし
鴨の下小鰒鰒と云本ハ非ハ出雲ハ鰒多き國ときつ鰒の
字ハ誤成べし水草川ハ有鰒と記ハ疑ハし六川无魚と記セリ
鯉魚ハ慶長七年頃堀尾氏ハ備前國岡山より河鯉六十尾を

持来リ末次の新堀ハ放つ其後寛永十年五月出雲川洪水
出て國中の入海ハ流入入海の潮引てより鯉魚所々ハと國人ハ云

前原坡周二百八十步有鴛鴦鳧鴨等之類

前原坡と餘戸里上字部尾より鈔云在自大海埒東北
所經之義也。所生の物ハ小字成べし

張田池周一里卅步

匏池周一里一百一十步生

美能夜池周一里

口池周一里一百八十步有鴛鴦

海濱并泉

敷田池周一里有鴛

南入海行東

南入海之意、宇島根の間、自海行東、ハ朝酌、促戸を渡、海

朝酌促戸渡東有通道西在平原中央ナカハラ

渡則筌互東西春秋入出大小雜魚臨時トキトシテ

來湊筌邊駙駙風壓水衝或破壞筌或製モハラ

日魚一本田鹿於鳥被島坡を誤、法吉捕大小雜魚濱ハタノヒロモノハタノサモノヲトル

白鹿鹿

鈔云詳其処

藻家闐市人四集自然成廊矣自茲入東

濱之間南北二濱並白魚水

朝酌促戸之意、宇郡間、瀉より島根郡福富へ渡、所度八十歩許

下文又見え、廣き入海の水門、ハ甚迫き所、水脈を

早し。促戸訓セト、波也止とも訓べし、廣く大なる水門を

東、通道を枉北道、西平原を末次前原の辺なり。○促戸小筌

を張て魚を捕、こし筌の辺、人來り湊て魚をわづらひ、又魚の多きを

鈔云朝酌促戸、自今福富村之東之街路也、西平原多賀社城、津田馬橋之間、有今尚洲渚、呼曰中島、是捕雜魚、今同矢渡、八十歩、今八十間、者意、宇國、麻出、雲、之、字、街頭、自是北、方、廿、五、町、間、瀉、与、福、富、之、度、口、凡、八十歩也、大井濱、朝酌、東、即、大井、海濱也、是、美、冷、水、自、大井、東、大海、境、所、之、壁、崖、涌、泉、是、也

名字倍捕魚竹筥と云て。さて釜を用ゐるさあ。遠江國豊田郡の
大河に上なる魚梁を見るふ。川の促戸を塞て木を横へ。その
塞する中川の瀧つ所をウゲと云竹籠を洗めおけ。魚はそれ
水脈の早ふ落流て。洗める釜に入なり。其塞の木を踏
て通ふは。促戸の釜と凡似たるをもて思ひ合せり。つり。
○風壓と風の起る勢ひあり。神武紀十二。歷訓。鮫。入東。朝酌を
渡。東。行。則大井濱なり。南北二濱。意字。島根相對て八十步
を隔。以。所。西小松江の大橋。二郡の塙也。慶長十三。手堀尾帶
刀始。成大梁
と鈔云云。

朝酌渡廣八十步許自國廳ウミベシユクミナナリ通海邊道矣。

大井濱則有海鼠海松スエツキツクルナリ又造陶器也。

大井濱朝酌の東大井村の濱なり。海鼠和名古似蛭而大也。本草云
海參又熟海鼠云伊里古。海松和名美流食經云水松狀如松而無葉
○陶器瓦器和名須惠宇都波毛乃と云。
物語文ハハすゑつゝとも云り

邑美冷水東西北山並嵯峨南海澶漫中央ウミヒロシナカ

鹵澶磷二男女老少時叢集常燕會地矣カダアリイッミミツキヨシシホワキイデナルイシ

邑美和名云石見國邑美因幡國邑美共訓於布美。鈔云大井
濱東大海村之崖有泉涌出と云り。此所勝地。人集遊とな
る。昔ハ燕會之處と云。嵯峨ハ字鏡訓佐我志。澶漫玉篇云
遠也。ヒロシと訓へ。莊子曰澶漫為樂と云言相似たり。

前原埒東北並山麓從下則有陂鈔云大海村中俗呼云地角解周二

百八十步深一丈五尺許令云度地用大三邊東西草キシニ

木自生涯鴛鴦鳧鴨隨時常住波之南海

也即陂与海之間濱東西長一百步南北

廣六步肆鈔本松翁鬱濱鹵洲澄男女隨時

叢會或愉樂歸或耽遊忘歸當燕喜之地

矣ナリ鳧字无本も有
文意明白なり

嵯嵯島周一十八里一百步凡今二里廿町弱高三丈古

老傳云出雲郡杵築御埼在鈔本嵯嵯天羽

合全鷺掠持飛燕行同按來止于此島故云嵯

嵯島今人猶誤枿島号耳此記を造りて天平の頃誤て枿島と号今又俗人大根島と云

土地豐沃東南北趣を記す文關西邊松二株以外茅沙

荻頭蒿路等之類生靡即有去陸三里

嵯嵯島東ハ夜見島北ハ郡家ノ近一此島大根鈔本嵯嵯島或嵯嵯島又枿島者今俗都曰大根島是

字彙云嵯南越志云一頭數尾長二三尺左右有脚倭名云海蛸子

太古字鏡同。羽合鷺ハ羽今と云たるを合と字一誤神代紀ハ

羽羽矢と云ハ羽の張て強きを云羽々鷺ハ羽羽矢の羽羽と同

信義羽合字一本大
ト作リ重字ヲ多ト書
ヲ合トヤニトシテ交シサ
テ天字或今大ト云
レ大羽々號トス

尾羽張、劔ハ劔先の張たるを云と宣長ハいれたる。よくかなへり。
鷺、和名字鏡共、訓古和之。景行紀、ガ覺賀鳥と云ハ鳴声よるなり。

○枿、訓多久。枿島ハ太古島を誤い。

○茅、和名知。一云白羽草。○莎、具々。落布々木。○牧、廢牧令義。

解云、畜園也。續日文武云、令諸國定牧地、放牛馬、式の左馬寮、小御

牧ハ甲斐武藏信野上野との有。諸國の牧ハ早く廢られけ

む。牧字諸本枝ハ誤。陸ハ夜見島

小當、三里、允今十五町。

蜈蚣ムカデ
本も有

島周五里一百卅步、高二丈古老

傳云、有蜈蚣島、蜈蚣食來蜈蚣食一本食止居一本貧誤

此島故云蜈蚣島、東邊神社所謂蜈蚣社也以外皆悉

百姓之家、土體豐沃諸本草木扶疎扶疎、玉篇云、木四布也桑

麻、豐富此澁所謂島里是矣去津二里

即自津ハ夜見島の渡場此島達、伯耆國郡内夜見島磐

石二里許、廣六十步許、乘馬猶往來、鹽滿

時深二尺五寸許、鹽乾時者已如陸地

○蜈蚣、和名云、一名百足、訓無加天。○夜見島ハ今の引ガ濱也。國引

坐一網のなれる。意字の文ハ註、此濱より蜈蚣島ハ渡るをこふ

乘馬猶往來と記す。今人馬の渡りと云、磐石、今道凡十一二町、本文

二里許ハ合、西蜈蚣島、渡凡四町許、今人イシと云

和多々島周^{ワタタ}三里二百廿步^{シロミ}有^桂推海^ミ柘榴^シ白

蒿路都去^{ワタリ}陸渡一十步不知^ミ深淺

和多々島ハ鈔云在三保郷中下宇部尾村今云和多太崎
芋菜ハ和名云芋ハ以閉都以毛菜ハ食ふ付て云詞佐加奈太加無
奈取奈幸^ナなの取。都波ハ意宇郡砥神島^ミ註。去陸渡一十歩
ハ三保郷より海を渡る程なり

美佐^{ミサ}島周二百六十步高四丈有^横推檀^ミ茅

蒿^モ芥下頭字脱カ記中芥頭蒿と書鈔云三保郷
也^ミ下宇部尾村之磯也蓋もと美保島の誤

戸江^{トノエ}刻^{セキ}郡家正東廿里一百八十步^ミ地濱^ミ耳^ミ陸

刻^ミ日本記畧各延平四年癸
近江口相坂刻

伯耆^國郡内夜見島^ミ戸江鈔云在三保郷森山村。刻^ミ塹^ミ柵^ミ之處

將相向之間也^ミ夜見島^ミと南北相向程海路栗江^ミ埼^ミ同

栗一本栗一本西木。戸江同所なり。渡の度ハ大尺今六尺一步と凡合
促戸より國中の入海ハ船通さまハ穴門の促戸の如ク。夜見島ハ弓ヶ濱
上註。埼之西入海堺とハ此埼の西南ハ出雲國の入海して伯耆の
國堺を記埼の東ハ大海なり其入海の産物ハ次註

凡南入海所在雜物入鹿^ミ和名云異物志云鯨鯨和名伊

名江
和^ミ余^ミ鰐也^ミ鰐^ミ和名奈^ミ須受^ミ枳^ミ和名云
近志^ミ呂^ミ鯨又鯨和名
鎮^ミ古乃志呂

仁^ミ和名云海鯽魚和沼本草云鯽一名鯽魚とちぬと似るなり出雲人ハ黑鯽
をちぬ鯽とも云薩人ハクロチンと云和泉國血沼浦人のちぬと

魚も黒鯛とシロヲ和名鮓
鮓相似り白魚之呂字海鼠和名
鰯鰯和名衣比俗用海壳
海

松等之類至多不可終名
類良繁多悉不陳と云り

北大海埼之東大海
行東猶自西

北一本比誤海ハ例ハ依て補。北大海と表例ハ秋鹿指縫出雲咸
同此所の文ハ依ハ粟江ハ入海の方より鯉石島より下ハ大海の方也さて
此埼を猶東へ行ハ三保より北へ折て廻り久毛等浦より西へ行ハみな
大海也。自西行東とハ朝酌より久毛等浦まで海を右よりて東へ
行を記さんと粟江より

古より陸路なきとおもはる

鯉石島生海
海藻和名余木米祝詞式
ハ海藻を惣て毛波と云

大島磯
鈔云鯉石島大島
者在三保郷福浦

宇由比濱廣八十歩捕志
宇由比濱ハ鈔云三保
長濱也。志毘ハ鮓

盗道濱廣八十歩捕志
盗ハ鮓の誤

澹由比濱廣五十歩捕志
盗道澹由比加努夜三濱者鈔
云在三保関与福浦之中路也

加努夜濱廣六十歩捕志
盗道澹由比加努夜三濱者鈔
云在三保関与福浦之中路也

美保濱廣一百六十歩西有家神社捕志
三保
北百姓

美保埼用壁時
ある人の云用ハ周定ハ鬼の誤周壁時
美保地蔵埼と云

等島

當

鈔本當々諸本當位。島々ハ蟻。記小多述具久々も有。
鈔云從三保濱十八町在海中俗云
島神蓋事代主道遙之處歟

士島 磯

士一本上。一本土。鈔云在地藏崎之磯也。
云志島。磯と耳をて程を記さぬハ狹少。

久毛等浦 廣一百步

自東行西

北浦の始也。鈔云
泊我俗作字於雲津

黑島

生海

黑島以下御前小島まで七島を
鈔云皆從雲津七類所之之小島

這田濱 長二百步

一本這由出雲郡
小同名あり

比佐島

生紫菜

紫菜和名無良佐木乃里
海藻尔木米俗用和布

長島

生紫菜

比賣島 磯

結島門周二里卅步高一十丈

有松斧頭
嵩都波

御前小島 磯

上件七島ハ久毛等浦
より七簡比小行間より

質簡比浦 廣二百廿步

姓南

神社
志太大明神
北百

久宇島 周一里卅步高七尺

有椿椎白木小
竹斧頭嵩都波

所經之海中。久宇島以下粟島迄八島ハ鈔云從七類浦有片結獨
芋ハ薏苡。和名云芋珠訓豆々太萬

下文七十四丁久宇島

鳥島周八十二步高一十五丈

尺行 有島 下文島 之柏

黑島生紫菜

鈔云鳩島鳥島黑島者自片江北須義浦所之之島之名也

須義濱廣二百八十步

鈔云須義濱者北浦中磯有衣島也

衣島周一百廿步高五丈中鑿南北船猶往

來也

鈔云上源我源千三 中鑿以下九字 稻積島蘇島の文 三處全同地狀同一なる

稻上濱廣一百六十步有百姓

鈔云北浦之漁戸也

稻積島周卅八步高六丈有松林中鑿南北

ナカラウカチテ 堅行 堅行

船猶往來也

古本卅諸本ハ卅 稻積島ハ鈔云北浦磯 稻倉大神 鎮座 伊奈須美社坐スツ 横通林下島字諸本鳥誤

大島磯

鈔云大島者 稻上稻積同所 穴深磯俗云麻仁 祖山 是磯 上文 伊奈阿氣社 鈔麻仁祖大神云

千酌濱廣一里六十步東有松林南方驛家

東北一十九里一百八十步

此則所謂度隱岐國津是矣 南方北方の如き方字ハ皆よ付る例也 鈔云今千酌浦也 物なり 諸本西北廿九里廿步 今ハ千酌驛程と通道に依又鈔本の程を以改書

加志島周五十六步高三丈

加を如 書本ハ非

赤島周一百步高一丈六尺

有松 鈔本高三丈ハ誤 加志島赤島 者千酌与葦浦之海路也

葦浦濱廣一百廿步有家百姓

鈔云今俗云葦浦中
有葦浦之稱と云り

笠石 鈔云有葦浦一本立石

黒島 生紫菜 前文黒島重出

鈔云黒島龜島共在葦浦海中

龜島 生紫菜 海藻

附島周二里一十八步高一丈有椿松芥頭

也其芥頭蒿者正波字落たる本もろ寒國小芥頭蒿の正元六寸生る故を王作の地湯氣ひて竹子早生

蘓島 生紫菜 海藻 中鑿南北船猶往來也

契沖云和名ササキ
葦浦ト云テササキ
イハル草アリ万葉集
ササキト云ルハ葦頭
葦ト云ルハ葦頭
ホソカサ
又云都波屋ハ其
葉落ルカリミテ
トコナミアリテ九月
頃黄ナルニホソカ
ナルヤウニ花サカ
モノヲ常ニ刈テ
コレカ

真屋島周六里高五丈有松 鈔云附島蘓島真屋島者從葦浦在之野浪處八十六里と云本ハ非

松島周八十步高八丈有松 鈔本八丈諸本一丈

立石島 磯 鈔云松島立石島者在野浪浦中瀨埼也俗呼云仙埼

瀨埼 磯 所謂瀨埼 瀨埼ハ十酌野浪の邊也諸本謂字元考補或ハ戌の誤神門郡の戌ハ或ハ誤卷末戌條ニ註

野浪濱廣二百八步 一本二百 東邊有神社 奴奈

野浪ハ奴奈と訓沼中濱て小なるへし書紀ニテ瀨浪田稻と云も水田の稻也今も海辺小砂土の水乾く處ハ稻と云なり

鶴島周二百一十步高九丈有松

勝間島・前
文勝間埜

鈔云。鶴島。間島。毛都島者。在小浪野浪加賀中。佐浪等海。

鈔云。加賀浦也。

藻有海

黒島以下赤島迄。神埼より大葦浦の間なり。同郡曰浦小黒島赤島重出

通ホレリ道ヲナシ所イハユル處トユ也ナリ謂コト所アレ佐サ太タ大ダイ神カミ之ノ時トキ所コト弓ユミ箭ヤ生ナ亡ウセ

和云此弓箭多、又少オモハ
臨産ノ中弓箭ヲ備ヘテ惡神
等ヲ退ス例ノ神云ヨリアリ

シナリシ

和云麻湏羅神。卽子トハ茲薩
雄子。乃善心ニテ古言トキフエ

也高例に依て補東北道と書通ハ一古本あり

行若密行者神現而飄風起行船者必覆

社坐此處今人此窟辺行時必聲磬磕而

哉詔而射通坐即御祖支佐加比賣命

又金弓箭流出來即待取之坐而閣鬱窟

時所生御子詔此者非弓箭詔而擲廢給

弓箭出來願坐尔時踊弓箭隨水流出尔

賣命願吾御子麻負羅神御子積佐者所亡

坐尔時御祖母神龜命之御子積佐者所亡

加比の三字ハイニリ加賀郷の文子依て補生下御も例子依て補
加賀ハ郷名加賀郷の文子金弓以射時テリカ、ヤケリ光加ニ明也故云加ニニニ
神埼ハ郷の北子多窟ハ佐太大神の生おせる所也といひ傳ふ

碓也碓也石投水也
碓石相撞声

○神龜命及枳佐加比比賣命ハ加賀郷小註佐太大神ハ秋鹿郡
佐太御子社の所小註○此記のなれる天平の時の人も昔の傳ハ
依てその處迄行時必聲碓碓而行と記すそのより千年餘を經て
今の人も此所を船のりする時ハ声るるううて行あり
○覆ハ倒也多乎羅武久と訓ハ
奇明紀のうたよりなり

御島周二百八十步高一十丈中通東西有椿

松 中宇鈔
栢 本ふちし

葛島周一里一百十步高五丈有椿松小宇鈔
竹茅葺耳 本ハ无

檳島周二百卅步高一十丈有松
古本卅步 諸本卅步

許意島周八十步高一十丈有松林 或人云茅沢ハ
大一本

真島周一百八十步高一十丈有松

比羅島 生紫菜 海藻

黒島 生紫菜 海藻

名島周一百八十步高九丈有松

赤島 生紫菜 鈔云上文黒島以下至赤島十二島自神埼大芦浦
所之之小島也。按黒島六赤島三有ハ二重出カ

大埼濱廣一里一百八十步西北有百姓之家

御津濱廣二百八十步有百姓之家
鈔云御津今水島也

三島ミツ生海ニ
サ藻
鈔云在北浦
之海中也

虫ハシ一本出 津濱廣一百廿步
虫ハシ字ハ蛭ウ今蛭戸ト云所も有。鈔云
旧属島根郡。今秋鹿郡斤句浦是也

手結埼タテマツ濱ハマ邊有アリ空屈クマカマ高一丈裏ウラ州步フミ
鈔云手結埼手結浦今俗云多升埼多升浦入秋鹿郡

古本ハ、午結埼濱辺有一窟云云と書。鈔本ハ、午結埼濱辺有一窟ハ一所とす。今濱辺の字を小書よするハ、古本ハ隨

午結浦廣四十二步
船二許
可泊
上文小澹由比濱出
出雲郡にも同名あり

久宇島周リ一百卅步高七丈有
松 鈔云在千結磯辺。○上文
 久宇島出同字疑ハし

凡北此イ
 書北を亮ス非
 海ニ
 所トレ
 捕ル
 雜物クサグモノハ
 志シ
 毘ビ
 鮓朝ニ誤
 魚本有
 台サ
 沙魚沙魚
 和名鮫佐米拾遺
 一名沙魚

烏イ賊カ
伊イ加カ和名
蛭タ蝾コ
鮑アハヒ
草云和名 鮑阿波比本
一名鰓
榮サハ
螺工
蛤ウミキ
貝
蚌ミナモト字或作

和名海岭宇魚木
蚌菜波万久里
棘
粹
甲
二
盲
魚
和名
宇仁
石
字
或
經
子
作
甲
カ
盲
セ
魚
和名
加世
蓼
螺
子

螺子 字或作 和名云小辛螺仁之 漢語抄云蓼螺子 螺 蠣 子 和名云蠣 蛤加木 石華 字或作 蠣

犬脚也。或曠和名云石花花或作葦二三月皆紫舒花附石生故以名之。又云虎蹄子勢○葦在今本葦小誤○字或

作蛎作蛎ハ螺蛎子の註也。犬脚也とい和名ハ貌似犬蹄と云を後人書加たるか。曠於脚者勢也とい石華貝の貌を註する也。此貝出雲郡

等々島よも出今長門オノ白貝和名海澡ニキメ海松ミ紫菜ル凝海ユルモ

菜和名云凝海菜古留毛波俗等之類至繁不可令令盡を誤

称也令ハ尽の誤上文入海の産物の不ハ尽の字書る例

通意宇郡坂字鈔朝酌渡一十里一百廿步八十之

中海八十步一本一十一里二百廿步朝酌郷ハ一十里八十四步

通秋鹿郡里十七町六十分之四也坂佐太橋一十五

里八十步凡今二里四町六十分通隱岐渡ノワタリチ平酌驛家千イ

湊一十九里一打イ一百八十步凡今二里廿六町也。九里を一本一里ハ誤通度七里各不同

郡司主帳無位出雲臣

大領外加美正六位下社部臣

小領外須カ從六位上社部石臣一本石臣一本石若

主政從六位下勲業万都利古止蝦朝臣タキヒ

官位及出雲臣ハ意宇郡子註。社部の氏ハ未考石一本右小書ハ早く
字一誤ハなり此臣の名ハ秋鹿郡惠曇濱の文小島根郡大領社部臣訓
麻呂と云え人なり。勲ハ勲位業ハ得業生を畧書
。蝦和名波美姓氏録撰津神別云火明命十一世孫蝦部王犬手之後

と見え。秋鹿郡仁多郷にも蝮臣見えり。此姓小朝臣を賜ふハ未考。蝮
部なり。ト部ハ平礼の約り。又按蝮の字を多治比と訓へ。古事記仁徳條
蝮之水齒別命云々。爲水齒別命之御名代定。蝮部とるを同記反正
條小水齒別命坐多治比之柴垣宮治天下と書り。

村也

主丸外六

立下

蟪蛄蟪蛄

道通

通意宇部

坂

小

殿

六

立

下

蟪蛄

中海

八十

步

大

殿

五

立

下

小

殿

六

立

下

蟪蛄

蟪蛄

新

六十

里

一百

八

立

下

蟪蛄

110X
425
3